

しなやか

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

Minato Mirai Honcho Elementary School

ESD BOOK feat.MM

2020

横浜市立みなとみらい本町小学校

見
え
な
い
価
値
へ
、
挑
戦
し
て
い
く



しなやか Minato Mirai Honcho Elementary School ESD BOOK feat.MM 2020

2021 (令和3) 年2月28日発行

発行者：小正和彦

発行所：横浜市立みなとみらい本町小学校

〒220-0011 横浜市西区高島1-2-3

電話：045-451-1515



小学校ホームページ



コロナ禍による一斉臨時休校から始まった2020年度でしたが、そのような状況の中での本校のESDを中核にした学校運営の歩みにつつまして、2019年度に引き続き、報告をさせていただきます。

2回の緊急事態宣言を含め、1年以上にもわたる今回のコロナ禍により、学校現場においても、子どもや保護者の皆様、そして教職員の安全を第一に優先し、様々な対応と制約の中での学校運営となりましたが、一方で学校運営にとって大切なことを再確認する機会にもなりました。子どもたち（大人もそうですが）は、それまでは想定さえもしていなかった状況（自宅から自由に出ることができない、好きなように友だちと遊ぶことができない、など）を通して、身近に持続不可能なことがあることを実感し、ESD/SDGsを自分事として考える大きなきっかけになりました。また、学校におきましても、教育課程や教育活動自体を目的化する

のではなく、子どもたちにつけさせたい力の育成のために、その状況の中でどのように実現していくのかを考えることの重要性を改めて理解する機会になりました。そのような中、東京都市大学佐藤真久先生、東洋大学米原あき先生はじめ多くの皆様からのご指導、価値づけに後押ししていただき、本年度もふれることなく学校運営を進めることができました。感謝申し上げます。

本校で開校以来スクールミッションとして取り組んできておりますESDですが、まさしくスクールマネジメントとカリキュラムマネジメントが一体となつての学校創り、学校運営であり、さらにそれを社会とともに進めるホールコミュニティアプローチの様子をご覧いただき、すべての皆様がステークホルダーのひとりとして繋がっていただくことを願っております。引き続き、今後ともよろしくお願いいたします。

横浜市立みなとみらい本町小学校 校長

小正和彦 Kazubiko Komasa



「できない」「難しい」「無理だ」そんな言葉が社会のあちこちから聞こえてくる1年でした。さすがのみなとみらい本町小学校でも、今年ばかりはESDどころではないだろう…。まずは、少しでもそんな風に考えたことをお詫びせねばなりません。それほどに、この学校の先生方の頭の中は、「こうすればできる」「こうやったらもっと楽しい」でいっぱいでした。たとえばロイロノートの導入。単に教材をオンライン化するだけでなく、「9月入学問題」などの時事問題に素早く反応し、掲示板で子どもたちが「9月入学に関する賛否」を発表していました。このコロナ禍でさえも、みなとみらい本町小の魔法にかかると、「教材になってしまうのか!」と脱帽。他にも何度、帽子を脱いだことか分かりません。

困難な状況でさえも、学びの材料にしてしまう学校——このような学校を、私は「レジリエントな学校」と呼びたいと思います。レジリエンス (resilience) とは、物理学で弾性や復元力を意味する言葉ですが、転じて人間や組織のストレス耐性にも使われるようになり、SDGsの文脈でも社会的レジリエンスという概念が注目されています。大きな困難に対して、硬いバリアで守りに入るのではなく、しなやかな発想をもってクリエイティブに対応していく。危機に際してそれが自然にできる教育現場こそ、ESDの哲学を内在化した「レジリエントな学校」だと思うのです。私が脱帽したのは、何よりも、みなとみらい本町小学校のレジリエンスに対してでした。

VUCA時代の主役となる子どもたちは、コロナ禍が収束したのちの社会でも、また別の困難に直面することでしょう。それらの問題から自分の身を守るだけでなく、しなやかな発想で、解決を楽しみながら、「みな」と「みらい」を作っていってもらいたい。レジリエントなみなとみらい本町小学校は、コロナ禍の経験すら栄養にして、まだまだ成長していきますので!

東洋大学社会学部 教授/インド工科大学人文社会科学研究所 客員教授

米原あき Aki Yonehara

ロジックモデルを用いた 協働型プログラム評価の実践 ④

みなとみらい本町小学校 ロジックモデル2020 ⑨

実践事例 —ホールスクール部会—

実践事例の見方 ⑩

ともだちWEEKの運営 (なかよし委員会) ⑪

ユニセフ募金 (運営委員会) ⑫

ともだちWEEK (放送委員会) ⑬

コロナクイズラリー (保健委員会) ⑭

コロナ禍での読書週間イベント (図書委員会) ⑮

調理員さんの思い (食育委員会) ⑯

校内の環境に目を向ける (環境委員会) ⑰

コロナ禍でもできる運動 (運動委員会) ⑱

実践事例 —しなやか部会—

実践事例の見方 ⑲

運動をして元気な体をつくろう ⑳

たてわり活動でSDGs的パートナーシップをはぐくむ ㉒

友だちのよさに気づき、よいものを認める仲間づくり ㉔

宿題をきっかけに自立した学習者へ ㉖

子どもの学習動機に沿った学習展開 ㉘

体験を重ね、根拠をもって考えを伝える ㉚

ICT×言語=寄 ㉜

企業との協働でSDGsを広める ㉞

日本語で友だちをつくり、仲間に入れるように ㉟

実践事例 —学年・学級—

学習室 ㉝ 低学年 ㉟ 中学年 ㊱ 高学年 ㊲

学校行事 ㊳

学校運営協議会/みらい共創ネットワーク! ㊵

編集後記 ㊶

みなとみらい本町小学校2020年度 職員 ㊷

ロジックモデルを用いた協働型プログラム評価の実践

——ホールコミュニティで育成する「みな」と「みらい」を創る子——

※協働型プログラム評価……8ページ右下段参照。

I はじめに

本校は横浜市街地の中心に位置するみなとみらい地区にあり、周囲には企業や大型商業施設だけでなく、様々な公的機関の事務所も立地しています。そこで、本校では豊かな地域資源と連携した「持続可能な社会の担い手の育成」を目指し、小学校という教育機関でどのようなESDを実践できるのかを、東洋大学教授の米原あき先生にご助言いただきながら、研究を進めてきました。

II 昨年度までの実践

(1) ESD/SDGs を中核とした学校づくり

学校教育目標をESDの資質能力をベースに策定しました。そして、スクールマネジメントおよびカリキュラムマネジメントを通して、活動ベースに具現化してきました。



(2) ESD/SDGs という概念の開封 (Unpack)

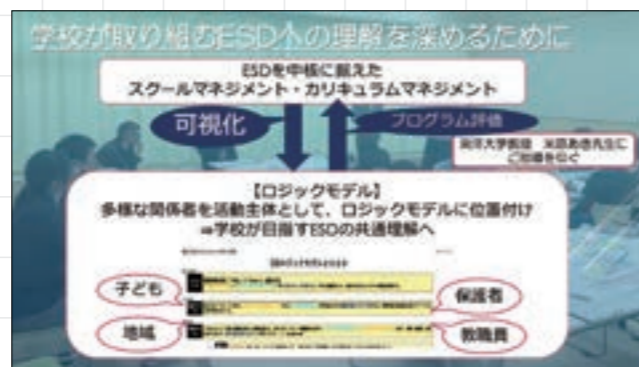
ESDとは何か——。私たちがESDを始めるときにも、この問題に直面しました。そこで、ESDを理解するために、まずは自分たちの言葉でESDという概念を「Unpack (UNESCO2016)」^{※1}して、ESDロジックモデルを用いて整理しました。ESDの概念を具現化させること——それは、私たち教職員が目指すべきゴールの具現化にもなりました。

※1 ESDロジックモデル



(3) 多様な関係者間でのESDの共通理解の促進

ESDを中核に据えた学校づくりを進める上で、大きな課題の一つが、児童・保護者・地域・外部協力者、そして教職員といった学校に関わる多様な関係者(ステークホルダー)の間でのESDについての共通理解でした。



ESDで目指す資質能力や目標を整理して可視化し、ロジックモデルにて明示したことで、保護者や地域の協力者より、「学校がESDに取り組む中で、何を目標しているのかが理解できた」「自分たちで、どんなことを協力していけばいいかを考えるきっかけになった」などのご意見がいただけました。

ロジックモデルにてESDを可視化したことで、多様な関係者間で目指すべきゴールを共有でき、一層の連携を進めることができました。

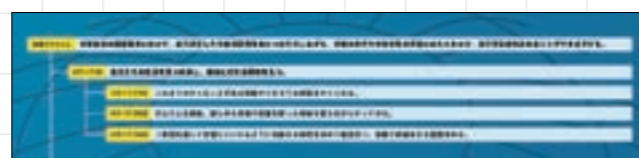
III ESDプログラムの実践 (今年度)

(1) 活動方針

今年度の活動は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受けることになりましたが、「今年だからできること」を考えて実践を積み重ねることとしました。今年は「**ロジックモデルで整理した資質能力を、具体的な教育活動場面に位置づけて、検証すること**」に取り組み、その成果と課題をもとにロジックモデルの修正にのぞむことにしました。

昨年度同様に、生活科・総合的な学習の時間を中心とした実践の積み重ねと同時に、「ホールスクールアプローチの推進」と「ロジックモデルに紐づいた実践」に取り組むことにしました。実践は、単元計画や実施計画をもとにミニロジックモデルでまとめることで、資質能力を整理しました。

※2 ミニロジックモデル

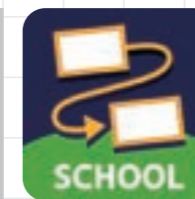


(2) ホールスクールアプローチ (COVID-19)



新型コロナウイルス感染拡大により、感染症対策をしながらの教育活動となりました。活動計画の見直しにあたり、「できない」ではなく、「できることを考える」ことを大切に、今年だからできることを実現しました。その一つが、ICT活用です。本校は以前より、「授業内でタブレット端末の活用を進めていたこと」「保護者との連絡等のペーパーレス化に取り組んでいたこと」もあり、休業期間中も比較的スムーズにICTを活用できました。学校再開後も、すべての学級でロイノートスクール・アプリを活用した実践の積み上げを進めてきました。今までの協働的な学習形態は残しつつ、タブレット端末を活用した学習のよさを取り入れた「ハイブリッド、な学習環境が整えられました。

※3 株式会社LoiLo社が提供する双方向授業を作り出す授業支援クラウド。動画や写真、手書きメモなど直感的な操作が可能で「思考力」「プレゼン力」等の育成をサポートする。



(3) ホールスクールアプローチ (しなやか部会)

「ロジックモデルの文言が日常の教育活動のどんなことに関連しているのか」という議題が昨年度の職員反省会であがりました。

そこで、今年度は教科・領域に縛られることなく、ロジックモデルに紐づけたテーマについて個人で一年間取り組み、検証することにしました。公開授業や実践提案を積み重ねることを通して、ロジックモデルの文言の共通理解が深まりました。さらに、ロジックモデルの加筆・修正に生かしていきたいと思います。

●活動事例 (一部)

子どもの学習動機に沿った学習展開

→直接アウトカム0103

たてわり活動でSDGsのパートナーシップをはぐくむ

→直接アウトカム02

●特別活動

【人権週間の取組】

12月の人権週間では学校全体での取組として、なかよし委員会を中心に「と



もだちウイーク」に取り組みました。委員会ごとにSDGsと関連するテーマを決めて、友だちとのつながりを深める活動に取り組みました。

【たてわり (異学年) 活動】



昨年度の児童アンケートでも高評価であった、たてわり活動を今年度も実施しました。活動に制限がありましたが、月1回の昼休みを使ったレクリエーションや運動会などの行事で交流を深めました。活動を通して、リーダーである6年生が自身の成長を感じていました。

(4) 学年・学級の取組 (生活科・総合的な学習の時間)

【食育】1年・5年



WFPと関わりながら、給食の残食を減らす取り組みや残菜の肥料化に取り組みました。新1年生に向けた映像を製作中です。

【環境教育】4年



NPOや近隣企業と連携し、身近なごみ問題から創造的なリサイクル「アップサイクル」に関心を広げて活動に取り組みました。

【自然共生】3年



外部機関と連携しながら、学校内の田んぼを生き物が集う、自然に近い持続可能なビオトープへと作り替えました。

【海洋保全教育】3年・6年



身近な海の生き物調査や住みやすい環境について考えました。横浜の海を再現した「海水槽」を校内に設置しました。

【まちづくり】2年・5年・6年



2年生はまちとつながり、人々の想いに触れながらまちの価値を見つめ直しました。高学年は、まちの社会課題解決に向けた取り組みを進め、5年生はまちにSDGsを伝え広げる活動に取り組みました。6年生はまちのにぎわいを増やすために、鉄道会社と連携した活動を進めました。

IV ESD/SDGsプログラムの評価

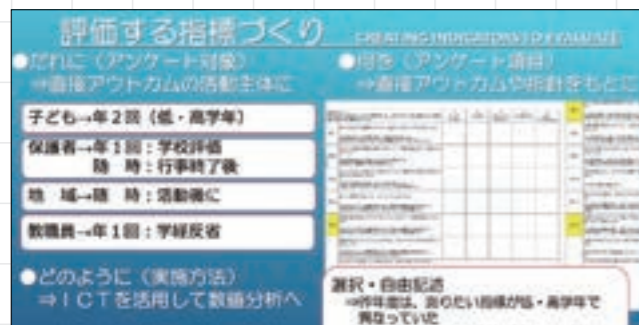
(1) 総括評価から形成評価へ

ESDプログラムがどの程度「活動主体の意識や行動の変化（変容）」や「関係者間の密接な連携」等を促しているかに関して検証を進めました。その際、大事にしたのが、「形成評価」の考え方です。

形成評価とは、活動をする前や活動中に実施される評価であり、実施後に成果を明らかにしていく総括評価とは異なります。形成評価に取り組む上で有効的に活用できたのが、先に例示したロジックモデルでした。それは、ESDに対する評価指標がないため、ESD概念を「UNPACK」したロジックモデルが評価指標のもととなるとともに、見過ごされてしまうかもしれない価値をロジックモデルで可視化したことで、評価を通して価値づけすることができたからです。

(2) 実現したい価値を指標にしてアンケートで測定

実現したい価値をロジックモデルに紐づいた指標にして、活動主体にアンケートを実施しました。



※4 iPad を用いた回答の様子



(3) アンケート結果のデータ分析

米原先生のお力も借り、データはできる限り数値化して、客観的な分析を進めました。職員でアンケート結果の分析を行った際は、顕著な特徴が表れた設問や教員の予想とのずれが生じた設問を中心に検討をしました。改善を考える視点は、「分析を通じたロジックモデルの見直し」。手法はPDCA (⇒CDAP) を取り入れました。

- ①CHECK アンケート結果からスタートし、
- ②DO 活動内容（何をしたのか）を振り返り、
- ③ACTION 残りの3カ月をどのようにしていくのかを考えました。さらに、
- ④PLAN 次年度に取り組む活動をどう進めるべきかを話し合いました。時間をとってしっかりと分析することで、自分たちのやるべきことが明確になるとともに、職員間の共通理解が促進され、意思の疎通がスムーズになっていると感じています。

⑥ ロジックモデルを用いた協働型プログラム評価の実践

※5 PDCAをもとにしたアンケート結果の分析

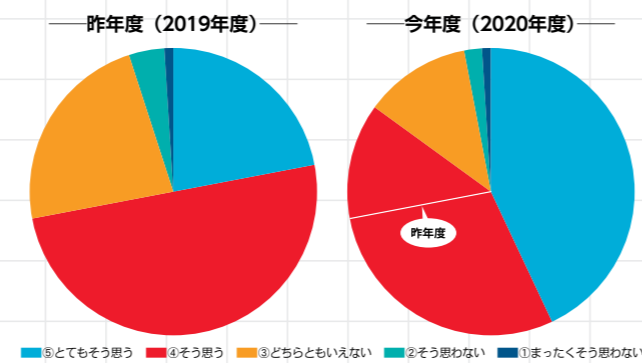


(4) 経年変化から見えてきた成果と課題

2年間の経年変化を追ってみることで、その成果と課題がより明確に見えてきました。数値が向上しているものが多く見られたことは、子どもたちにESDの意識が浸透してきていると考えられます。

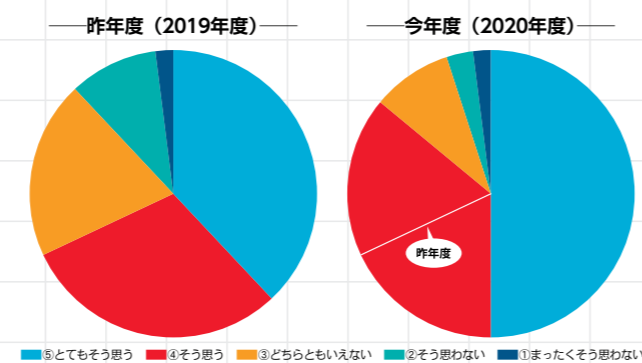
一方で、数値の向上が思っていたより伸びていないものや、減少したものもありました。

問1 自分でめあてや課題をつくり、学習にのぞむことができましたか。



昨年度と比べて、数値が向上しました。これは、探究的な学びの定着がみられてきていることがあげられます。様々な教育活動の中で、めあてや課題をもち、その達成に向けて自分で学びを推進したことに成長を感じているのではないのでしょうか（問6とも関連）。

問6① 課題を解決していこうとする学習に、楽しさや自分の成長を感じられましたか。



昨年度と比べて、大幅に数値が向上しました。これも、探究的な学びの定着がみられてきていることがあげられます。めあてをもったりふり返ったりすること

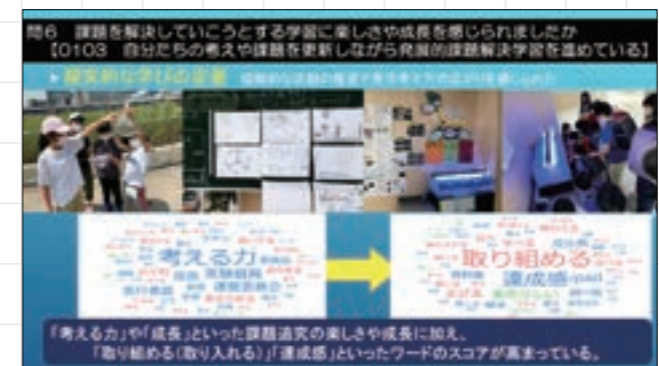
を通して、自分の成長を感じられているのではないのでしょうか（問1とも関連）。昨年度に比べて、「そう思わない」の層が減少しているのも成果といえます。

また、タブレット端末を活用しながら調べたりまとめたりする協働的な活動の推進で、子どもたちは自分の見方や考え方の広がりを感じながら取り組めたことも要因と思われます。

問6② 課題を解決していこうとする学習に、どんな楽しさや成長を感じられましたか。

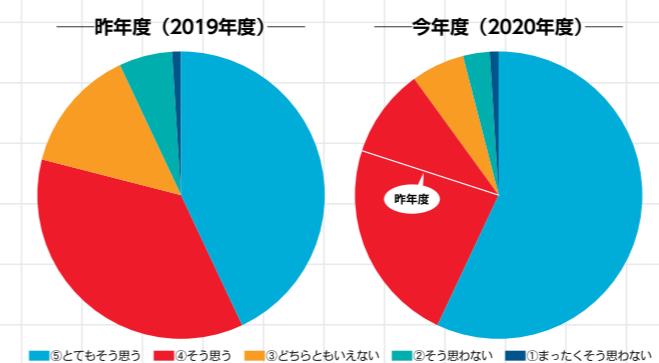


「調べる（しらべる）」や「知れる（知る）」「考える」といった課題追究の楽しさや成長に加え、「達成感」といったワードのスコアが高まっています。



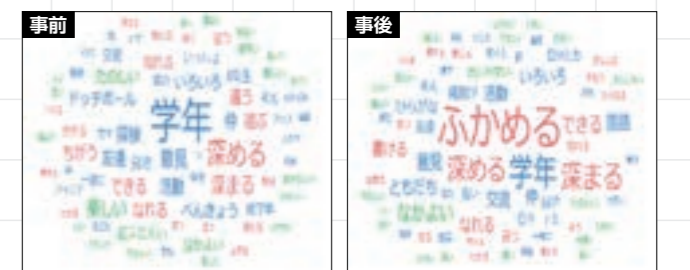
海洋保全教育に取り組んでいた6年生の結果では、リアルな体験活動から見出した社会課題の解決に向けて、考え・行動していく「発展的な課題解決学習」への達成感も感じられていると思われます。

問13① 友だちや学年の違う人と一緒に活動することによさを感じていますか。

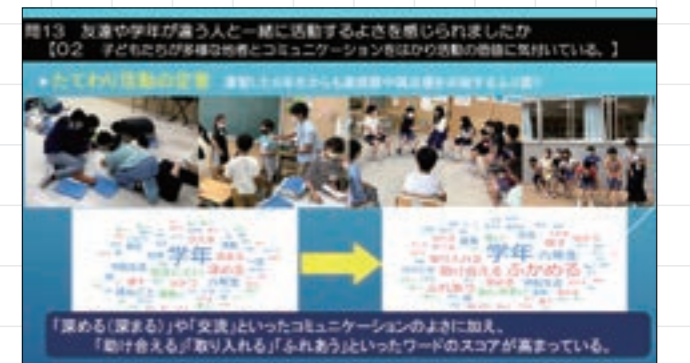


さらに高評価となりました。これは、たてわり（異学年）活動を継続的に行ってきたことがあげられます。月1回のたてわりタイムだけでなく、運動会といった学校行事を通して感じているのではないのでしょうか。

問13② 友だちや学年の違う人と一緒に活動することに、どんなよさを感じましたか。

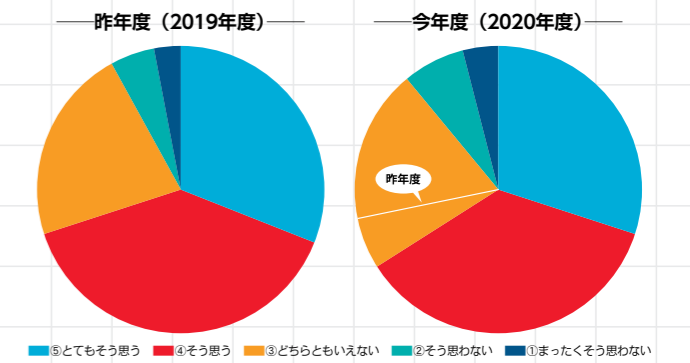


「深まる（ふかめる）」や「友だち（ともだち）」、「仲間（なか）」などのワードのスコアが高まっています。事前事後両方に「成長」「楽しい」「できる」「分かる」「チャレンジ」「発表」「言える」といった、主体的な学びにおいて成長が促される単語があることから、子ども自身がよさを感じられていることがうかがえます。「上手」「成長」「深める」「うれしい」「仲よい」など、事後の語彙も豊かになり、プラス表現が増えました。



たてわり活動を推進した6年生のアンケート結果では、コミュニケーションのよさに加え、「助け合う」「触れ合う」といったことの価値にも気付いていることが分かります。

問10 家や地域の人たちから、自分たちの活動に協力してもらっていますか。



昨年度と比べて、数値が低減しました。これは、活動を知ってもらう機会が少なかったことが考えられます。地域でのイベントが中止になったり、みなとみらいを語る会（学習発表会）も形式が変わったりして、昨年同様の発信ができませんでした。活動を知ってもらい、協力を仰げるような行い方の検討が必要と考えられます。

V 次年度に向けて

(1) 2年間を振り返って

ロジックモデルで、ESDの概念を可視化したことで…

- 包括的なESD概念の可視化を通して、職員のESDに対する捉え方がそり、理解が深まりました。
- 今年度はロジックモデルの文言の具現化を図ったことで、ESD概念の一層の理解と共有が深まりました。
- 一つ一つの教育活動にESDの意味や意義を感じ、子どもたちの活動に価値づけられるようになりました。
- 実現したい価値をロジックモデルに紐づいた指標で評価したことで、成果と課題が明らかになりました。
- 体系的・俯瞰的に見られるようになり、生活科・総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な学びを構想し、実践できました。
- 資質能力がどの教育場で涵養されているのかが具体的にってきました。

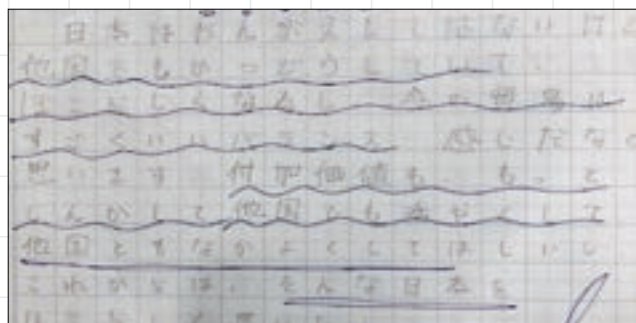
ロジックモデルを地域、保護者に周知したことで…

- 学校が何をしようとしているのかというロードマップを示すことができました。
- 保護者が「学校から何を求められているのか」の理解が深まり、協力体制が整ってきました。
- PTA・教育奨励会のイベントで、ESD/SDGsに関する取り組みを共有してもらえました。
- 連携先との打ち合わせで、ロジックモデルを提示することで、活動を通して「何を目指しているのか」を共有しやすくなりました。

子どもたちとESD/SDGsに取り組んできたことで…

- 何か活動を計画する際に、ESDの視点を入れたものが当たり前となり、意識が根づいてきました。
- 外部機関との連携を通して自分たちの活動を発信することの意義を実感でき、子どもたちの表現力・発信力が身につけてきました。
- 「持続可能な社会とは」という見方をもって、様々な学習に取り組む子どもの姿が見られます。今後(10年後)のあり方を考えて、学びを振り返る様子が見られました。ESDと関連させながら、学習や活動を創る意識の一層の定着をはかりたいと思います。

※6 5年生児童による社会科の振り返り(一部抜粋)



(2) 次年度に取り組むこと

ロジックモデルを策定して、3年目を迎えました。様々なアンケート結果が示すように、すでに達成していると思われる指標もある一方で、さらに追究すべき指標も残されています。また、コロナウイルスなど、ロジックモデル策定時には想定していなかったことや、ロジックモデルの運用に関することも課題として明らかになりました。

今年度までに成果と課題が明らかになったことから、次年度はロジックモデル2021版の策定(項目の入れ替えや文言の加筆・修正)に取り組んでいきます。そして、本校の5年後、10年後の目指すべき姿を明らかにしていきたいと考えています。

協働型プログラム評価とは？

東洋大学教授、米原あき先生は、ESD評価の難しさとして、

- ①それぞれの主体がESDの定義を行い、評価指標を設定する必要があること
 - ②ESD評価の結果が、ESDプログラムの改善に役立つような評価活動を導入する必要があること
 - ③多様なレベルを包括する評価のデザインを検討する必要があること
- を指摘されています。また、「**形成的な評価を参加型/協働型で行うことによって、ESDの取り組みの改善に資する評価活動が実現できると考えられる**」とも、示唆されています。

そこで本校では、上記を踏まえて協働型プログラム評価を、「**ステークホルダーが活動主体となって、ESD理念を具現化した学校教育目標の達成に向かって活動を推進し、その活動主体と協働して形成評価を進めることで、スクールマネジメントに活用すること**」と捉え、取り組んできました。

多様なステークホルダーと協働することで、ステークホルダーは学校の取り組むESDの意義を認識することができました。また、ロジックモデルに紐づけた評価指標を作成・実施することで、ステークホルダーは学校が可視化したESDの価値を共有することもできました。これによって、ホールコミュニティまで視野に入れた包括的で、プログラム改善につながるような、評価デザインの実現に近づいています。

文責◎高原洋介

【引用・参考文献】

- 『横浜市立ユネスコスクール/ESD推進校実践報告』P34-63 / 米原あき
- 『平成31年文部科学省SDGs達成の担い手育成 (ESD) 推進事業』
- 『プログラム評価ハンドブック』P147-159 / 晃洋書房 / 米原あき

みなとみらい本町小学校 ロジックモデル2020

【最上位目的】

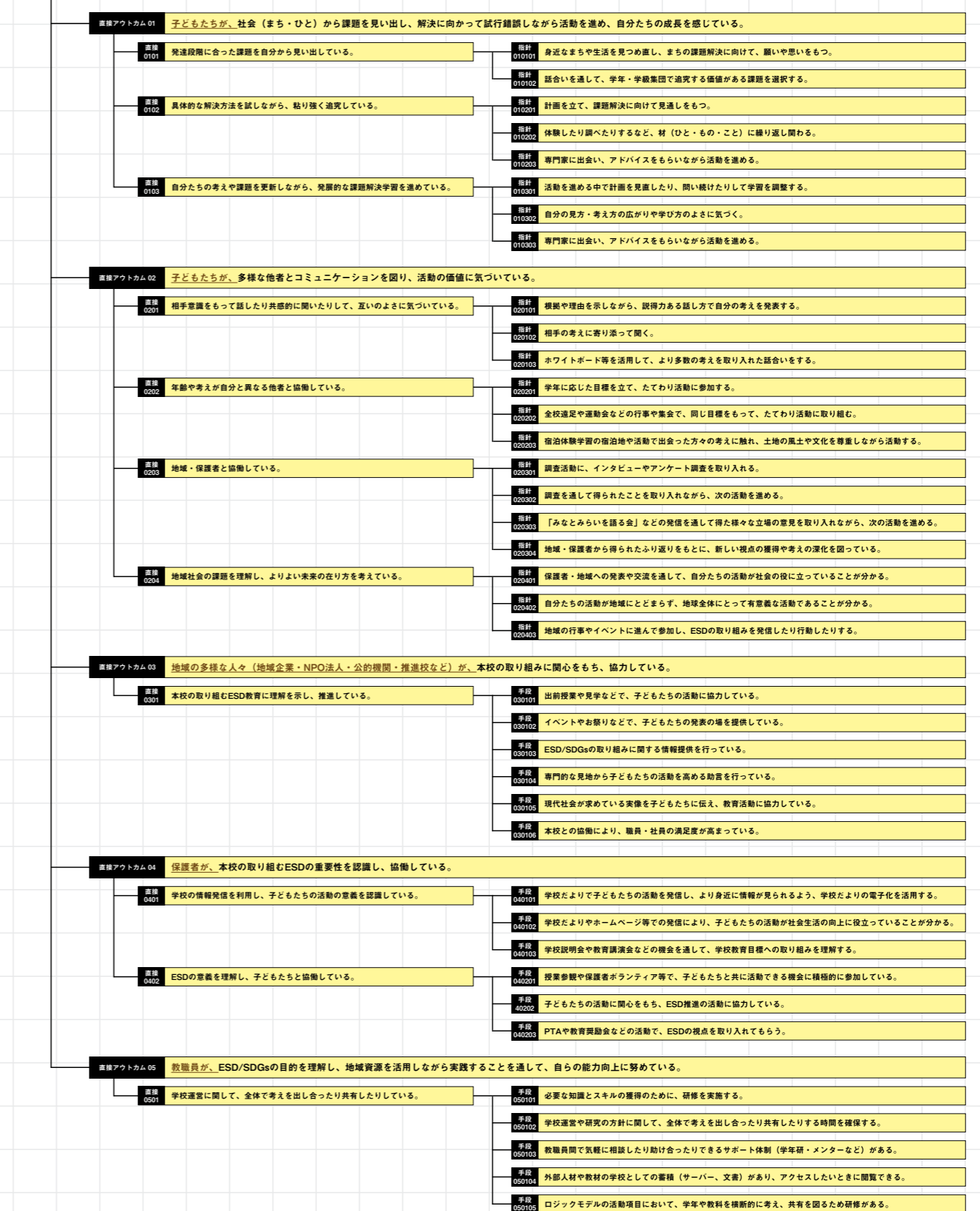
スーパーゴール 学校教育目標「[みな]と[みらい]を創る子」
「多様性を認められる」「多面的・多角的に物事を捉える」「問いを見出して学び続ける」「まちに愛着をもつ」「豊かな心をもつ」の5つの資質を育成する。

【上位目的】

最終アウトカム 社会(まち・ひと)とつながり、多様な文化や価値観を取り入れながら広い視野で物事を捉え、現代社会における課題の解決に向けて行動できる、持続可能な社会形成を担うグローバルな人材が育成されている。

【戦略目的】

中間アウトカム 「みなとみらい」の豊かな資源を生かした教育活動から、社会(まち・ひと)の課題解決に向けて、様々な視点や立場に立ち、多様な他者の考えを共有しながら、地域・保護者・企業にはたらきかけ、社会に変化を起こせる子(※1)が育っている。 ※1/社会に変化=変容



今年度の実践 ホールスクールの取り組みは学級・学年の枠を越えた活動です。主に委員会やクラブ、学校行事などを通して学校全体の活動として取り組みます。

今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、児童同士が関わり合う活動に工夫が必要だったり、日常生活に不安のある児童がいたりしました。そのため、「MM COVID-19」の活動を計画しました。活動のきっかけは、児童会活動で「生活が制限される中で自分たちができることは何か」と話し合ったことでした。その思いが広がり、各委員会ですべての児童に向けた活動を話し合い、取り組みました。

実践事例の見方 ホールスクール部会の実践は、それぞれ片側1ページにまとめています。

ページ説明 ロジックモデルのどの項目に関連しているか、それに関連しているアンケート結果の分析、活動を通して児童がどのように変わっていったかについて書いてあります。

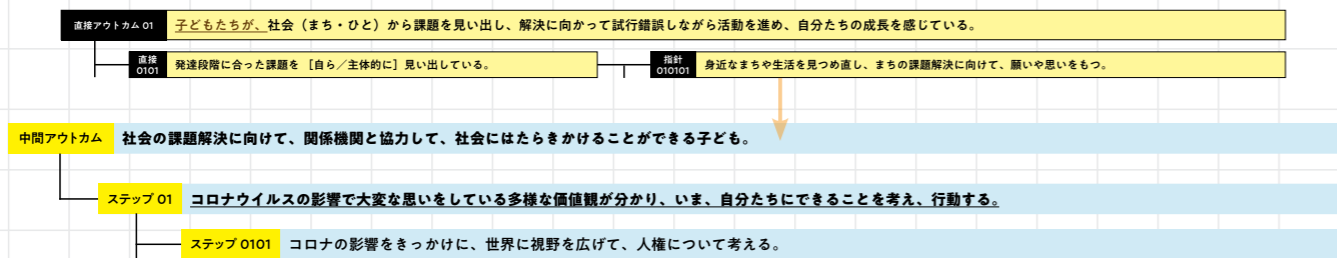
上部分に記載したロジックモデルに紐づいている活動をミニロジックとしてまとめました。また、特徴的な活動の実際の様子や活動写真を中心にまとめました。



- 【ロジックモデルに関連する各委員会の活動名】**
- 【活動のきっかけや児童の様子】** 児童の様子からホールスクールで資質能力を伸ばすための活動を考えました。
- 【関連するロジックモデル】** 活動と関連するロジックモデルの中で特に関わりが大きいものを抜き出しています。
- 【アンケート結果と分析】** 2020年8月と2020年12月の3年生～6年生を対象にしたアンケート結果のうち、ロジックモデルと関連したものを取り出して、分析しました。学級全体数を基とした百分率で表しています。
- 【活動の意図や成果、課題】** 教師がねらっていた活動の意図や活動を通じた児童の学びについて記載してあります。

【ミニロジック】 各委員会がホールスクールで取り組んだ活動をまとめました。ミニロジックは、ロジックモデルの指針の具体的な活動事例です。ステップ01の活動の後には、ステップ02として次の活動が連なります。中でも新型コロナウイルスに関連した活動を抜き出しました。その下には、時系列に合わせて、ステップ0101、ステップ0102、の順序で記載しています。一つひとつの活動をするのが、中間アウトカムにつながります。活動はロジックモデルの複数の項目と関連しています。活動の計画をミニロジックにすることで、ロジックモデルとの関連を具体的に考えられるようになります。

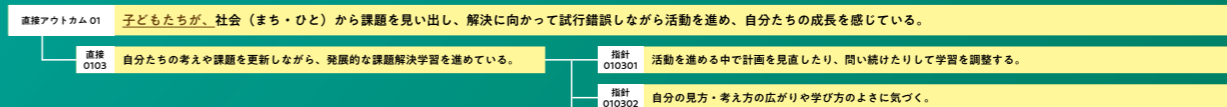
【ロジックモデルとミニロジックの関連】



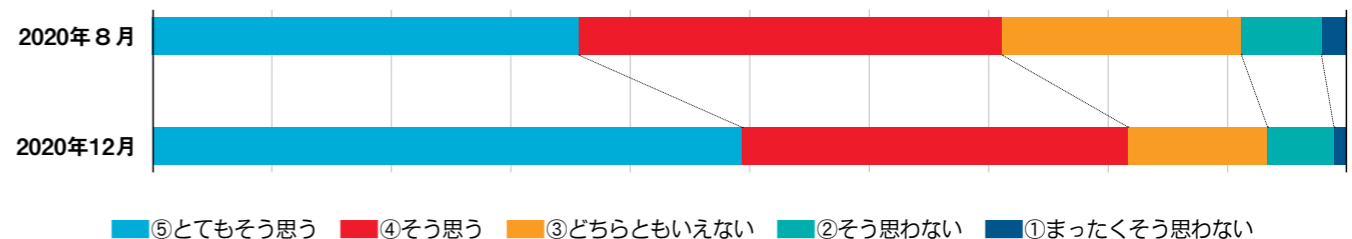
ともだちWEEKの運営

【なかよし委員会】

活動のきっかけや児童の様子 休校が終わりみんなと再会できた際の学校アンケートでは、友だちといれること、会えたこと、話せることなどの言葉がたくさん浮かび上がってきました。そこから今年の人権集会を「ともだちWEEK」と称し、みんなが学校にいることのできる幸せを感じられる一週間にしようと各委員会に提案しました。



新しい課題や方法にも、チャレンジしましたか。



中間アウトカム 子どもたちが現代の社会情勢から課題を見出し、解決に向かって考えながら、学校をよりよくする。

ステップ01 ともだちWEEKを設け、友だちとの関わり方や、友だちのありがたみを考え直す期間を提案する。

- ステップ0101** どんな目標で行うか、どのような一週間にしたいか考える。
- ステップ0102** 全体の流れを把握し各委員会に内容を提案する。
- ステップ0103** オープニングで友だちの大切さを伝える動画をつくる。
- ステップ0104** ふり返りの仕方考え、全校で共有できるようにする（低学年には手本をつくる）。

ふり返りでは、各クラスから、ともだちWEEKで楽しかったことだけでなく、これから友だちとどのように接していきたいと思ったか、友だちのよさは何かなどのふり返りができるように呼びかけ、全校で共有しました。また、一人ひとりのカードを掲示し、全校で共有できるようにしました。

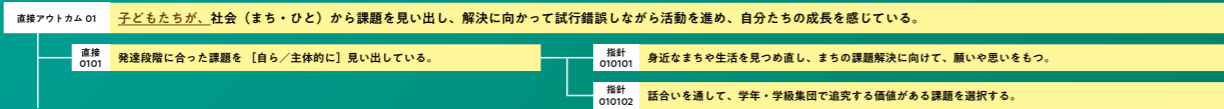
活動の意図や成果・課題 学校がなぜあるのか、学校の価値に改めて気づくよい機会になりました。当たり前のように友だちと過ごしていた日々を大切にすることができたのではないかと思います。ゼロから作る活動として、どんなことが必要なのか、どのような工夫をしたらよいか、呼びかけの方法やふり返りの方法、そこまでの計画を立てる際には、常に全学年のことを考え、活動することができました。



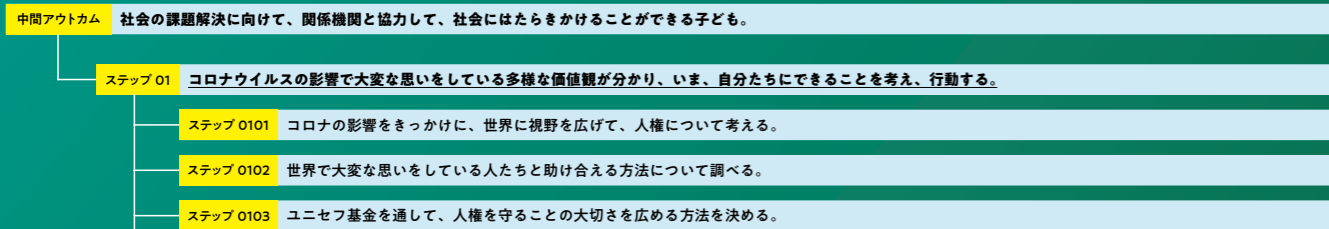
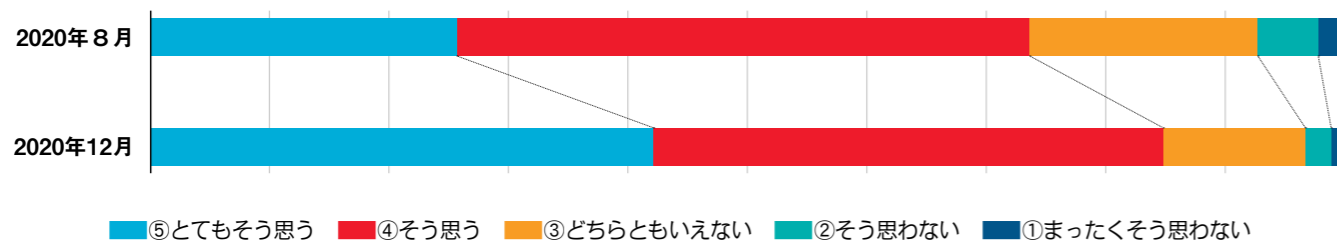
ユニセフ募金

[運営委員会]

活動のきっかけや児童の様子 コロナウイルスの影響で、自分だけでなく、たくさんの人たちが大変な思いをしています。世界に目を向けて調べると、支援を必要としている人たちがいることが分かりました。そうした人たちのために今自分たちができていることを考えて、活動をしました。



自分でめあてや課題をつくり、学習にのぞむことができましたか。



朝会で、映像を使って、世界には支援が必要な子どもたちが多くいることを伝え、人権を守るために、自分たちができていることを提案しました。毎朝、校門でユニセフ募金の呼びかけをして、集まった募金をユニセフに送りました。

ステップ0104 世界で支援を必要としている人のことを伝えたり、人権を守る大切さを伝えたりする。

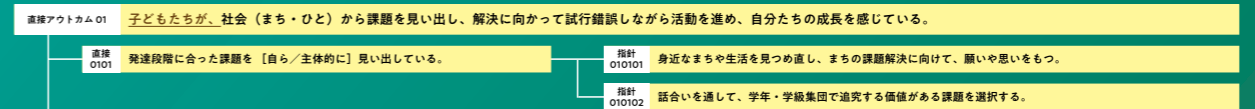
活動の意図や成果・課題 委員会の話し合いでは、感染が拡大することに伴って、一人ひとりの人権を守る大切さについての話題になりました。自分たちの生活の変化に関連して、世界の出来事も身近に考えられました。世界の人権について調べる中で、支援が必要な子どもたちが多くいることが分かりました。そこで、いま自分たちにできることとして、世界の子どもの生活環境を伝えること、募金を集めて送る活動を行いました。

文責◎赤岡鉄矢

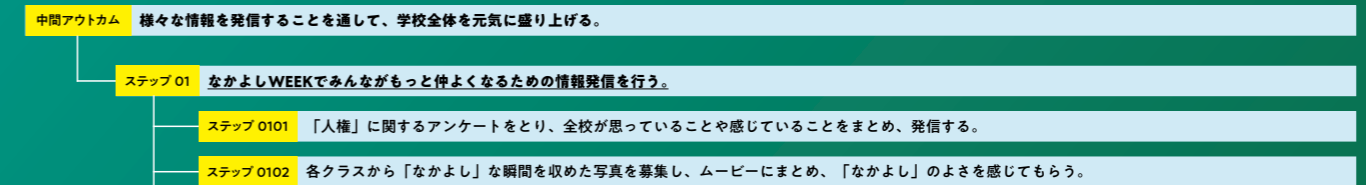
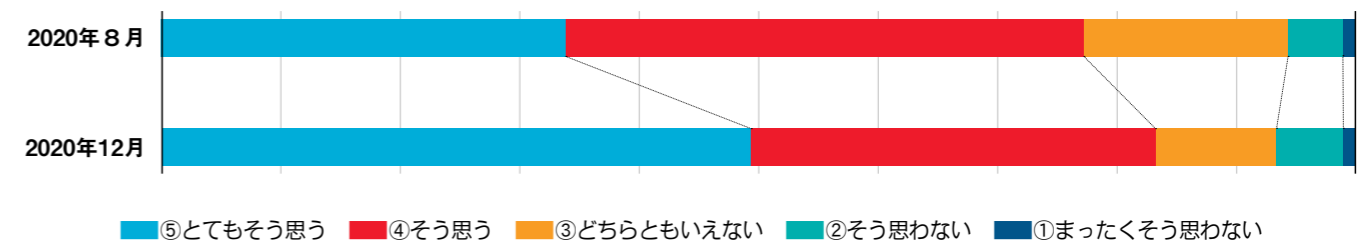
なかよしムービー&人権アンケート

[放送委員会]

活動のきっかけや児童の様子 友だちWEEKのときに、委員会として何かできることはないかと話し合いました。情報を発信できるということを生かして、「人権」についてのアンケートを取り、結果を共有すること、各クラスの「なかよし」な瞬間をまとめ、ムービーを作ることになりました。



新しい課題や方法にも、チャレンジしましたか。



なかよしWEEKの期間中、毎日お昼の放送で、関連することを発信することができたので、多くの児童が意識して行動することができました。また、ムービーを活用したことで、楽しく「なかよし」の価値を感じることができました。

活動の意図や成果・課題 なかよしWEEKのときに、「人権」のことを楽しく考えるという課題にチャレンジしました。1年生～6年生という幅広い学年のことを考えながら、企画することができました。

また、それまでの活動の反省を生かして、カレンダーを活用し、計画的に活動がすすむように工夫しました。全校が興味をもって放送を聞いてくれたことがうれしかったようで、達成感を感じていました。

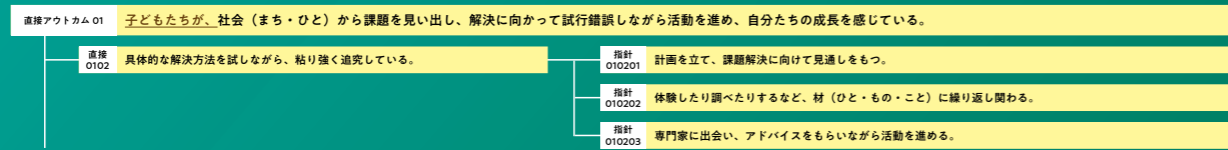


文責◎空田陽花

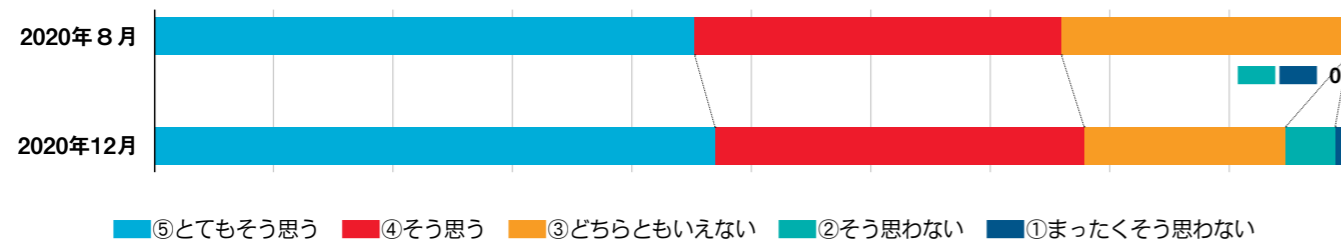
コロナクイズラリー

[保健委員会]

活動のきっかけや児童の様子 新型コロナウイルスについて、たくさんの情報がテレビやインターネットで流れています。中には、それって本当？と思うような情報もあります。新型コロナウイルスを予防するには新型コロナウイルスのことを正しく知る必要があります。全校に正しい情報を発信するにはどんな方法がいいか考えて、活動しました。



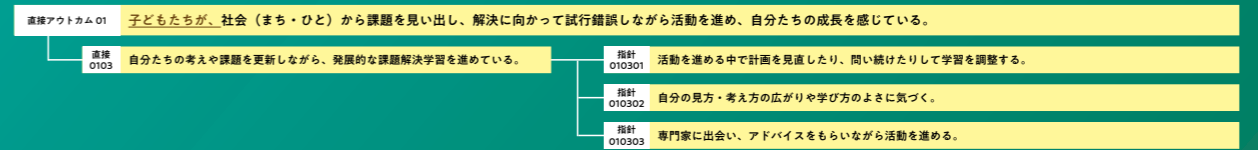
いろいろなことを試したり調べたりして、最後まであきらめずに学習に取り組みましたか。



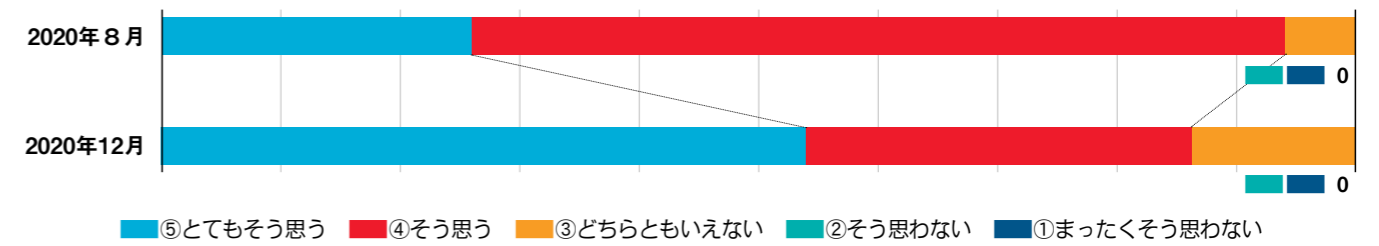
コロナ禍での読書週間イベント

[図書委員会]

活動のきっかけや児童の様子 例年11月「はまっ子読書の日」に合わせて、読書推進活動を目的とした、たくさんの読書イベントを行ってきました。ところが今年度はコロナ禍にあり、学校図書館を密にすることは避ける必要があります。そこで、図書委員会では、コロナ禍でも安全に行える読書イベントを考え、成功を目指しました。



課題を解決していこうとする学習に楽しさや成長を感じられましたか。



中間アウトカム 新型コロナウイルスに関する情報がたくさんあることを知り、学校の人に正しい情報を知ってもらい活動を考え、感染症予防についての意識や知識を高める。

ステップ01 コロナクイズラリーを計画して、正しい情報の発信、全校が感染予防をできるように活動する。



各学年のろうかにコロナクイズを貼り、多くの人に見てもらえるようにデザインを考え、目立つようにしました。クイズに挑戦した人には、解説つきのこたえBOOKやコロナキャラクターを使った景品を渡して正しい情報と感染予防の意識が高まるように工夫しました。

ステップ0101 調べたり、養護教諭に聞いたりしながら新型コロナウイルスについて知る。

ステップ0102 多くの人に見てもらえるよう、注目されるデザインを考え、コロナクイズポスターを作る。

ステップ0103 予防意識や知識を高められるよう、コロナキャラクターや解説つきのこたえ本を作る。

活動の意図や成果・課題 クイズの問題と答えは、養護教諭に相談しながら考えて、発信する情報が間違っただけにならないように注意しました。みんなに正しい知識をもってもらうには、発信する側がしっかり調べたり確認したりすることが重要だと感じました。クイズラリーにすることで、難しい問題は友だちと相談しながら考えられました。コロナキャラクターも作り、新型コロナウイルスについて、正しい情報を、楽しく知り、感染予防についての知識や意識を上げる活動ができました。

文責◎半澤祐美子

直接アウトカム 子どもたちが社会情勢から課題を見出し、解決に向かって試行錯誤しながら活動を進め、自分たちの成長を感じている。

ステップ01 密にならないような学校図書館の利用方法を考え、たくさんの人に本に触れてもらえるように計画を立て、ふり返って次につなげようとする。

ステップ0101 学校図書館が密にならない状況で読書活動推進のためのイベントを考える。

ステップ0102 ビブリオバトルの計画を立て、実施するための具体的な方策を考える。

ステップ0103 安全に、しかも全校生徒が興味をもって参加しようと思えるイベントになっているかどうか、司書教諭や学校司書のアドバイスをもらう。



子どもたちは、クラス代表の参加者によるテレビ生放送でのビブリオバトルを教室から全校生徒に参加、投票してもらうことで、密にならない状況での読書イベントが可能と考えました。ビブリオバトルの実施要項やルールを周知するためのポスターを各クラスに配布したり、図書委員会による実施要項の説明やビブリオバトルの実演ビデオを校内放送で流したりして、関心が高まるように工夫しました。

ステップ0104 活動を通して他者と協働することの大切さに気づく。

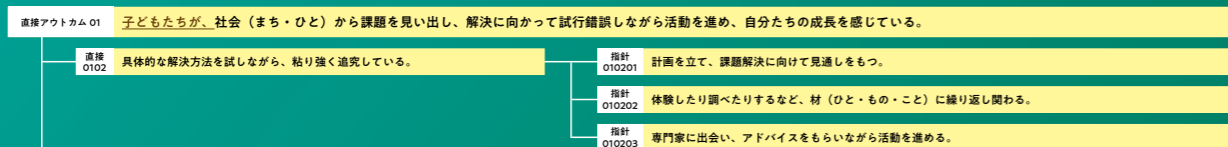
活動の意図や成果・課題 子どもたちは、コロナ禍でも図書館が密にならないように工夫すれば、安全に読書イベントを実行できるという自信を深めました。相手に興味をもって参加してもらうには、自分が積極的に発信したり実際にやってみせるということが大切であると、この活動を通じて子どもたちは気づくことができました。

文責◎木輪和代

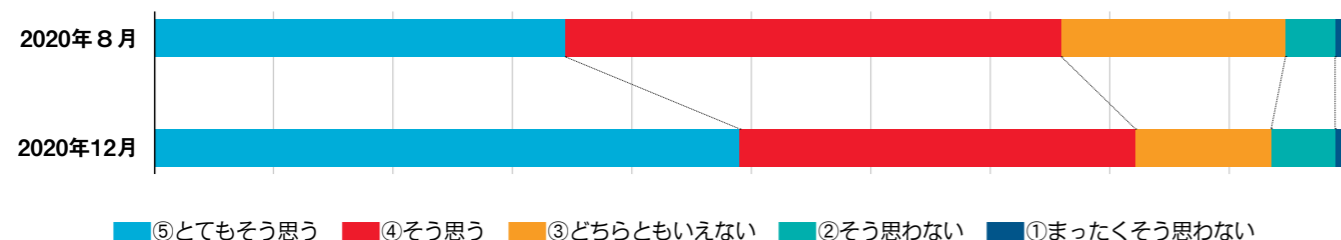
調理員さんの思い

[食育委員会]

活動のきっかけや児童の様子 コロナ禍においても給食の大切さを伝え、楽しい時間にしようと話し合いを進めてきました。給食を食べる側のことだけでなく、給食を作ってくれる調理員さんのことを支えることができるのでは、と考えるようになりました。



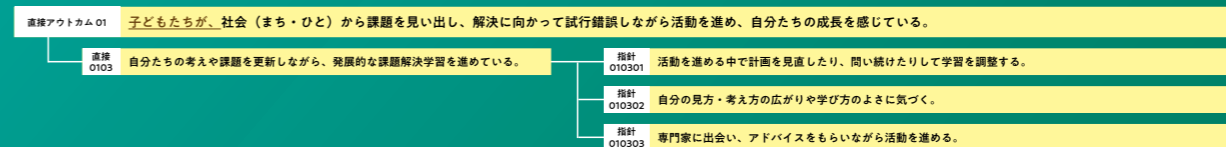
新しい課題や方法にも、チャレンジしましたか。



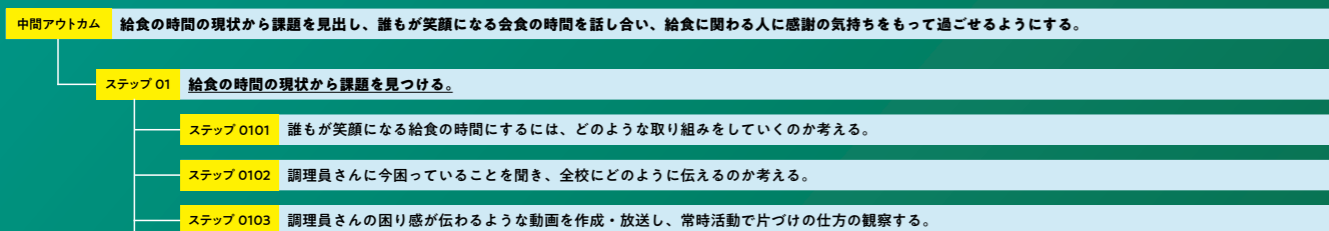
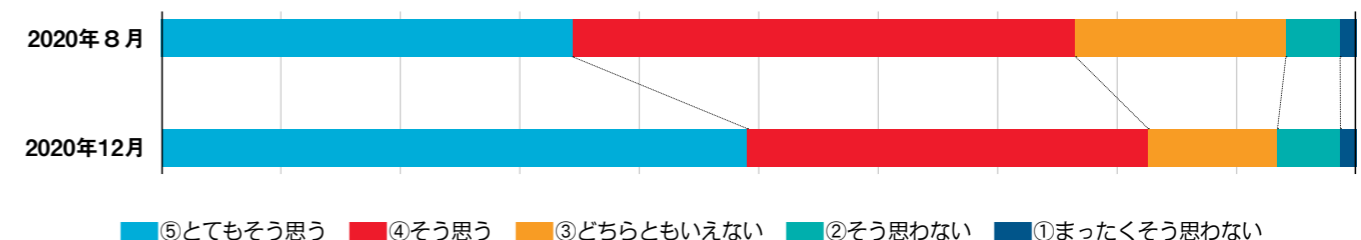
校内の環境に目を向ける

[環境委員会]

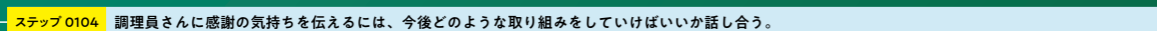
活動のきっかけや児童の様子 コロナ禍の学校生活においては、様々な制限が入り、それとともなって学校スタンダードも多くの変更点がありました。環境委員会では、校内の環境に目を向け、自分たちがどのような情報発信ができるのかを考えました。



新しい課題や方法にも、チャレンジしましたか。



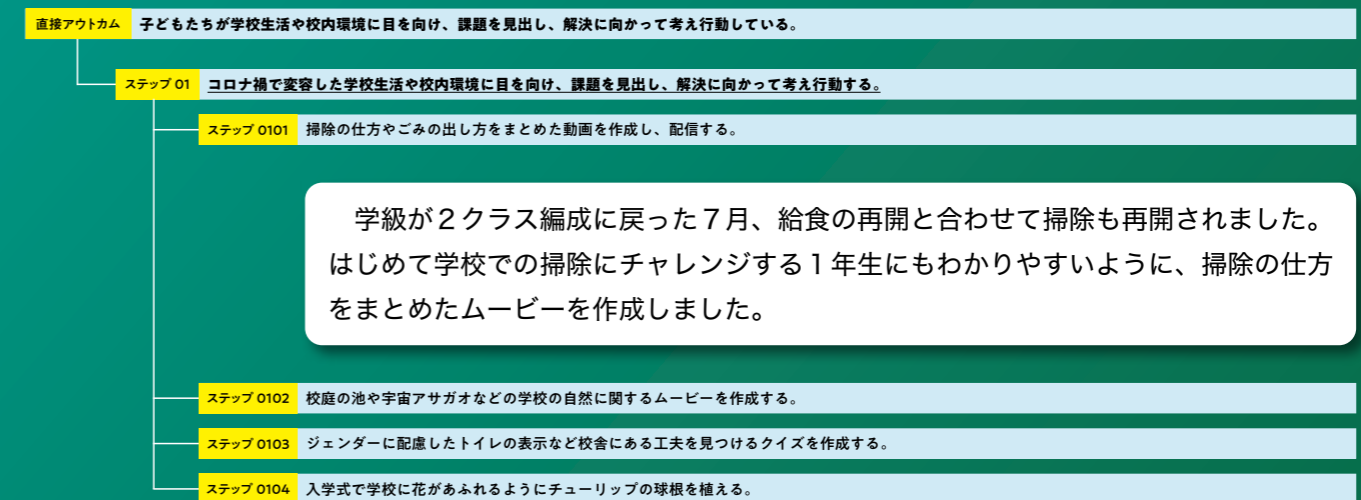
動画作成では、片づけ方が間違っているものと正しいものを比較するために、クイズ形式の動画を作成しました。また、低学年の児童にもわかるようにひらがな表記にするなど、全校にいかにわかりやすく伝えるか工夫することができました。



活動の意図や成果・課題 食育委員会から調理員さんの思いを発信することで、全校が調理員さんのためにできることを探すようになりました。給食週間では、調理員さんの顔と名前がわかるポスターを掲示し、一人ひとりの思いを収めた動画を作成しました。こうした活動により、調理員さんたちが給食を作っているありがたさが身近に感じられるようになりました。

そしてまた、私たちの給食にはたくさんの人たちが関係してくれているのだという裏舞台に思いをめぐらせることで、日ごろの常時活動にも力が入るようになりました。

文責◎田中雄大



コロナ対策以外にも、学校の自然や校舎など学校環境全体に目を向けて、それを紹介したり、よりよくなりました取り組みを行いました。

活動の意図や成果・課題 なかなか実現までこぎつけることができなかった取り組みもありましたが、SDGsについて考え、校内の環境をしっかりと見つめ直した一年になりました。今年は校内の環境を中心とした取り組みでしたが、コロナ禍が終息したときには学校外にも視野を広げ、様々な活動を行っていきたいと考えています。



文責◎松尾健一

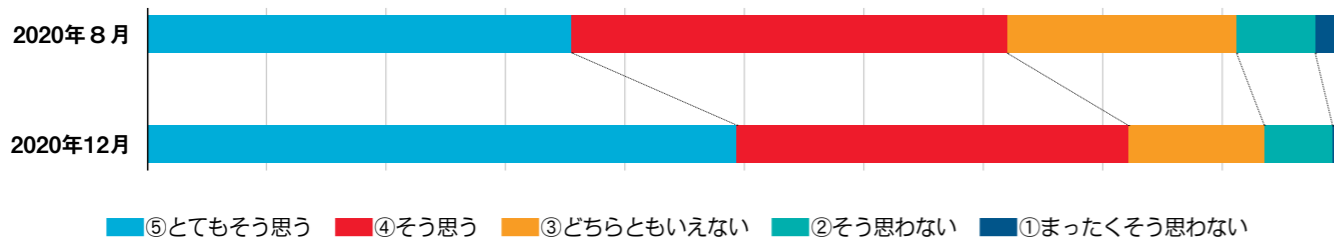
コロナ禍でもできる運動

[運動委員会]

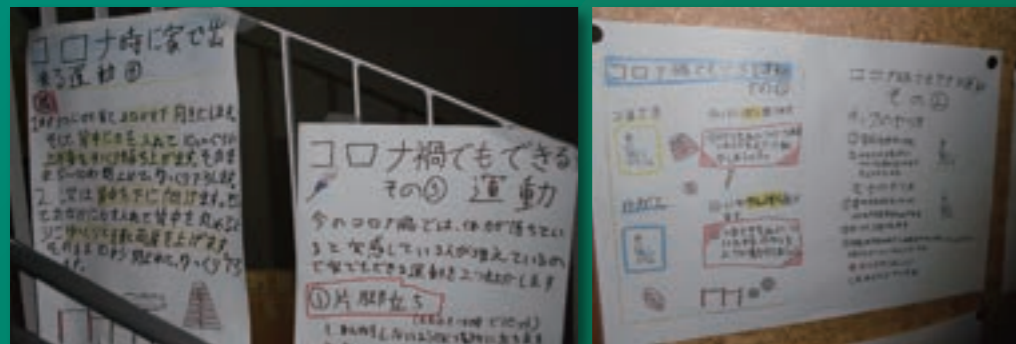
活動のきっかけや児童の様子 2カ月間の臨時休校の影響で日常生活での運動量が減り、体力の低下が顕著に見られました。学校再開後も、様々な場面で活動に制限がかかることが多く、体を思い切り動かす機会が減りました。この状況に児童自身が危機感を感じ、学校のみならず体を動かす楽しさを思い出してもらい、元気になってほしいという思いをもつようになりました。そして、コロナ禍でも安心してできる運動を全校児童に向けて提案することになりました。

最終アウトカム01	子どもたちが、社会（まち・ひと）から課題を見出し、解決に向かって試行錯誤しながら活動を進め、自分たちの成長を感じている。
目標0103	自分の考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めている。
目標010301	活動を進める中で計画を見直ししたり、問い続けたりして学習を調整する。
目標010302	自分の見方・考え方の広がりや学び方のよさに気づく。

新しい課題や方法にも、チャレンジしましたか。



中間アウトカム	子どもたちが現代の社会情勢から課題を見出し、解決に向かって試行錯誤しながら活動を進め、自分たちの成長を感じている。
ステップ01	「友だちWEEK」の期間を利用して、運動委員会として学校のためにできる取り組みを考え、全校児童へ向けて提案する。
ステップ0101	コロナ禍における学校や全校児童の実態を捉え、自分たちの委員会にできることを考える。
ステップ0102	「友だちWEEK」の取り組みとして、全学年が安心して行うことができる運動について調べたり提案する方法を考えたりする。
ステップ0103	運動の種類ごとにポスターを作成し、全学級へ周知する。
ステップ02	コロナ禍に配慮し、全校児童が安心して実施することができる運動を考え、MMタイムを運営する。
ステップ0201	3密を避けたMMタイムの行い方や運動の内容を検討する。
ステップ0202	検討した内容をもとに、MMタイムを運営する。



3密にならない状況をつくり、全校児童が安心して実施できる運動の内容や、運営の仕方について話し合いました。

活動の意図や成果・課題 一定の条件（場所、人数、行い方など）を考慮した運動を考えたり、提案したりする活動を繰り返し行う中で、日々の適度な運動と体力維持が体と心の健康に強く結びついていることに気づき、その大切さを改めて実感することができました。それと同時に、自分や友だち、家族や身近な人の健康を願う気持ちが強まりました。

文責◎田屋宏人

実践事例 —しなやか部会—

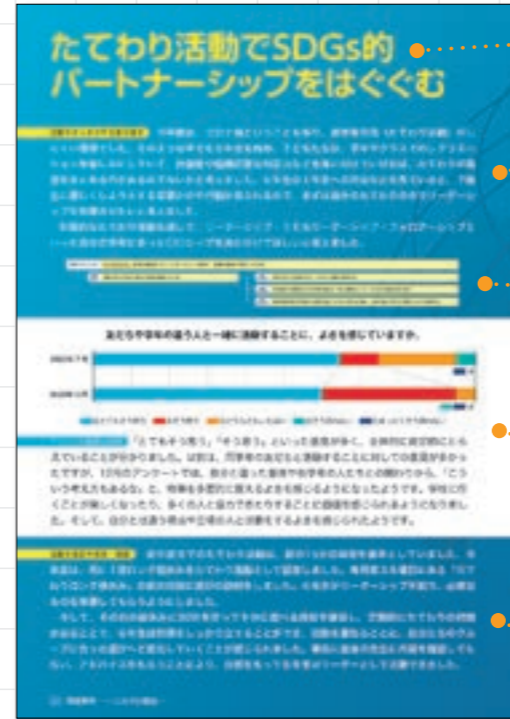
実践事例の見方

今年度の実践 小学校における学習活動が、ロジックモデルのどの項目に関連しているのかを明らかにしてきました。

実践事例の見方 しなやか部会の実践の取り組みは、それぞれ見開き2ページにまとめています。

左のページ

ロジックモデルのどの項目に関連しているか、それに関係しているアンケート結果の分析、活動を通して児童がどのように変わっていったかについて書いてあります。



【ロジックモデルに関連する活動名】

【活動のきっかけや児童の様子】 児童の様子から資質能力を伸ばすための活動を考えました。

【関連するロジックモデル】 活動と関連するロジックモデルの中で特に関わりが大きいものを抜き出しています。

【アンケート結果と分析】 2020年8月と2020年12月のアンケート結果のうち、ロジックモデルと関連したものを取り出して、分析しました。学級全体数を基とした百分率で表しています。

【活動の意図や成果、課題】 教師がねらっていた活動の意図や活動を通して児童の学びについて記載してあります。

右のページ

左ページに記載したロジックモデルに紐づいている活動をミニロジックとしてまとめました。特徴的な活動の実際の様子や活動写真を中心にまとめました。

【ミニロジック】 資質能力を伸ばすために行った特徴的な活動をまとめました。ミニロジックはロジックモデルの指針の具体的な活動事例です。時系列に合わせて、ステップ1、ステップ2の順序で記載しています。一つひとつの活動を行うことが中間アウトカムにつながります。活動はロジックモデルの複数の項目と関連しています。活動の計画をミニロジックにすることで、ロジックモデルとの関連を具体的に考えられるようになります。



【活動の様子】 ミニロジックの活動の中で、ロジックモデルや資質能力に関係している活動の様子を記載してあります。

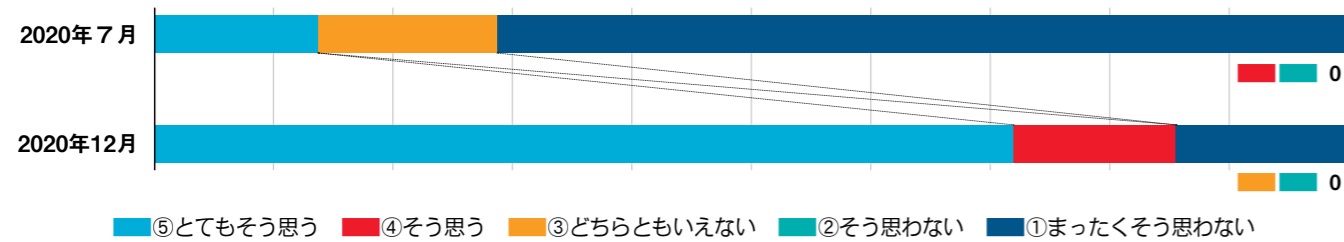


運動をして 元気な体をつくらう

活動のきっかけや児童の様子 室内で遊ぶことが好きな児童、体を動かすことが好きな児童など、様々な実態の児童が在籍しています。今まで、友だちと積極的に関わりをもったり、交流学級で自分の思いを発信したりすることをあまり経験していない児童もいます。体力づくりを通して、学級内外の人たちとのつながりや発信ができるといいと考えました。

目標アウトカム01	子どもたちが、社会（まち・ひと）から課題を見出し、解決に向かって試行錯誤しながら活動を進め、自分たちの成長を感じている。
指標0101	発達段階に合った課題を【自ら/主体的に】見出している。
指標0102	具体的な解決方法を試しながら、粘り強く追究している。
指標0103	自分たちの考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めている。
指針010101	身近なまちや生活を見つめ直し、まちの課題解決に向けて、願いや思いをもつ。
指針010102	話し合いを通して、学年・学級集団で追究する価値がある課題を選択する。
指針010201	計画を立て、課題解決に向けて見通しをもつ。
指針010202	体験したり調べたりするなど、材（ひと・もの・こと）に繰り返し関わる。
指針010203	専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。
指針010301	活動を進める中で計画を見直ししたり、問い続けたりして学習を調整する。
指針010302	自分の見方・考え方の広がりや学びのよさに気づく。
指針010303	専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。

違う学年の友だちにも、自分から関わることができましたか。



アンケート結果と分析 初めは、交流級での活動やたてわりでの活動に対してあまり積極的ではなかった児童もいましたが、交流級での成功体験や語るWEEKでの発表を経験したことで、違う学年の友だちに、自分から関わる事ができたという実感がもてるようになったと考えられます。

活動の意図や成果・課題 休校期間が長く、外で遊べないこともあった中で、運動をしてコロナに負けない元気な体をつくらうと、毎朝みんなで体操をしました。いろいろな楽しい体操を集めて、その日に行う体操を自分たちで選んで、楽しみながら体力づくりに取り組みました。

だんだん体操が上手になり、語るWEEKでは、自分たちのおすすめの体操を他の学級に紹介して一緒に体操をしました。関わった学級からは「動きが楽しかった」「難しかったけど、これからももっと練習したい」などの感想をもらいました。これからもさらに新しい運動に親しみながら、体力づくりを楽しんでいこうと思っています。



中間アウトカム 日常生活の課題解決に向けて、自己決定したり生活習慣を身につけたりしながら、学級の友だちや他学年の児童にはたらきかけ、自己肯定感を高めることができる子ども。

ステップ01 自分たちの生活を見つめ直し、体操に対する興味をもつ。

ステップ0101 これまでのやったことがある体操やできそうな体操をやってみる。

ステップ0102 簡単な体操、楽しめる音楽や画像を使った体操を覚えながらやってみる。

ステップ0103 1年間を通して学習していけるように体操する時間を決めて毎日行い、学級で体操をする習慣を作る。



朝の会のメニューの中に体操の時間を組み入れて、毎日取り組めるようにしました。「次は体操だね！」と楽しみにする子が増えてきました。

ステップ02 いろいろな体操の動きを練習したり、新しい体操に取り組みだりする。

ステップ0201 いろいろな体操を練習してマスターする。

「今日はこの体操にしよう！」「この体操、楽しいね！」など、自分たちで好きな体操を選ぶようになってきました。新しい体操にも興味が出てきたようです。



ステップ0202 どんな体操をしたいか、好きなものを選ぶようになる。

ステップ0203 新しい体操にチャレンジしたり、もっと上手になりたいという意欲をもつ。

ステップ03 他の学年、学級に体操を紹介し、一緒に体操をする。

ステップ0301 他学年の児童からの感想をもらい、今までの活動の意義を知る。これからの活動のモチベーションにする。

ステップ0302 他学年との交流の中で、発表や活動ができたことを自信にして、さらに続けていく意欲をもつ。



他の学年、学級に体操を紹介し、一緒に体操をしました。「楽しかった」「もっとやりたい」などの感想をもらい、これからの活動のモチベーションになりました。また、他学年との交流の中で、発表や活動ができたことは大きな自信につながりました。

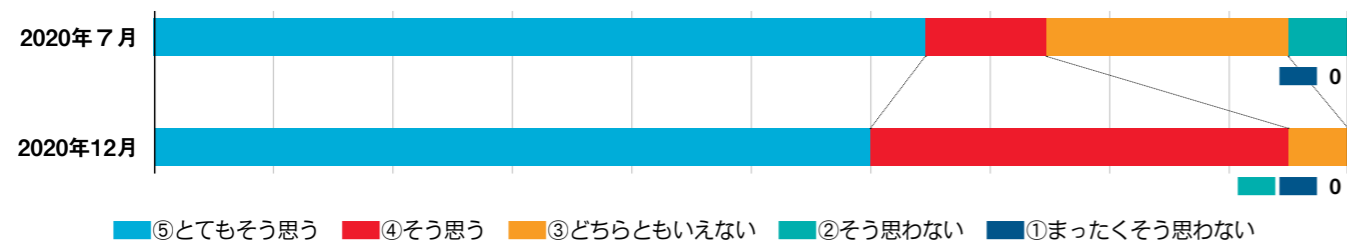
たてわり活動でSDGs的 パートナーシップをはぐくむ

活動のきっかけや児童の様子 今年度は、コロナ禍ということもあり、異学年交流（たてわり活動）がしにくい環境でした。そのような中でも6年生を始め、子どもたちは、学年やクラスでのレクリエーションを楽しみにしていました。計画性や臨機応変な対応力などを身につけていければ、たてわりの集団をまとめる力があるのではと考えました。6年生の1年生への対応などを見ていると、下級生にやさしくしようとする言葉かけや行動が見られるので、まずは自分のたてわりの中でリーダーシップを発揮させたいと考えました。

計画的なたてわり活動を通して、リーダーシップ・ミドルリーダーシップ・フォロアーシップといった自分の学年にあった〇〇シップを身につけてほしいと考えました。

目標アウトカム02	子どもたちが、多様な他者とコミュニケーションを図り、活動の価値に気づいている。
指標0202	年齢や考えが自分と異なる他者と協働している。
指標020201	学年に応じた目標を立て、たてわり活動に参加する。
指標020202	全校通足や運動会などの行事や集会で、同じ目標をもって、たてわり活動に取り組む。
指標020203	宿泊体験学習の宿泊地や活動で出会った方々の考えに触れ、土地の風土や文化を尊重しながら活動する。

友だちや学年の違う人と一緒に活動することに、よさを感じていますか。



アンケート結果と分析 「とてもそう思う」「そう思う」といった意見が多く、全体的に肯定的に捉えていることが分かりました。以前は同学年の友だちと活動することに対する意見が多かったですが、12月のアンケートでは、自分と違った意見や他学年の人たちとの関わりから、「こういう考え方もあるな」と、物事を多面的に捉えるよさを感じるようになったようです。学校に行くことが楽しくなったり、多くの人と協力できたりすることに価値を感じられるようになりました。そして、自分とは違う視点や立場の人と活動をするよさを感じられたようです。

活動の意図や成果・課題 前年度までのたてわり活動は、朝の15分の時間を基本としていました。今年度は、月に1度ロング昼休みをたてわり活動として設定しました。毎月第3木曜日の朝の時間に遊びの説明をしたり、必要なものを準備してもらったりしました。そして、その日の昼休みに30分を使って十分に遊べる時間を確保し、定期的にたてわりの時間があることで、6年生は計画を立てることができ、回数を重ねる毎に、自分たちのグループに合った遊びへの変化していくことを感じられました。自分のグループという所属感とともにそれぞれの学年や発達段階に合わせた関わり方をすることができました。事前に担当の先生に内容を確認してもらい、アドバイスをもらうことにより、自信をもって6年生はリーダーとして活動できました。

一方で、4年生・5年生に該当するミドルリーダーシップ・リーダーシップのつながりが見えにくいことが分かりました。1月には5年生、2月には4年生がリーダーとなる機会を設定しました。そうすることで、活動を引っ張っていくリーダーの役割やその重要性を感じられると考えました。そのような機会を年度の中盤にも取り入れることで、自分がリーダーでない場合でもどのような関わりをしていけばよいかを考えることができると感じました。来年度はそのような点も視野に入れて計画していきたいと思えます。

中間アウトカム 様々な視点や立場に立ち、多様な他者の考えを共有しながら、学校をよりよくしようとする子ども。

ステップ01 自分のたてわり班のメンバー合った、どの学年でも楽しめるような遊びや活動を考える。

遊ぶ内容を決めるときに、相手意識をもつようにしました。そのため、グループの名簿を基にして遊びの内容を考えるように計画しました。また、タイムスケジュールや遊びの場が盛り上がるような声掛けや音楽など環境面も配慮できるようなワークシートを作りました。計画の段階から、時間の感覚や盛り上がる雰囲気意識させることで、実際の様子を思い浮かべて準備をすることができるようになりました。担当の先生も事前にアドバイスがしやすくなりました。



ステップ0101 自分のグループらしい遊びであり、どの子ども安全に楽しく遊べるものを選んだり、工夫したりする。

ステップ0102 名前を知る→相手を知る→打ち解けるといった段階に応じた活動を選ぶ。

ステップ02 継続的な関わりや行事からたてわりというグループを意識して、協力して活動できる。

ステップ0201 継続的に1年生と関わることで相手の発達段階を知り、関わり方や話し方を変えるようになる。

ステップ0202 行事（運動会）でグループでの作戦を考える機会があることで自分のグループのメンバーと協力できる。

1年生には、6月から牛乳パック開きや掃除の手伝いなどを継続して行いました。たてわり活動を繰り返していく中で、どのような場面で場が盛り上がるか、逆に盛り下がるかといったコツをつかみ始め、間合いの大切さや飽きさせない工夫を盛り込んだ計画をするようになりました。

運動会では、全校競技でたてわりグループ内で作戦を作れるように設定しました。学年に関係なく、自分の投げられる力に合わせて作戦を練られるようなルールを考えました。活動のルールを6年生が説明するなどリーダーとしての役割を自覚し、自分たちのグループに合う作戦を立てられました。グループで一丸となれる機会を設けることで、協力を意識して取り組むことができました。



ステップ03 今までの活動をふり返り、よりよいたてわり活動にいくために多様な意見を取り入れる。

ステップ0301 ふり返りに自分自身のことだけでなく、下級生の様子や盛り上げを意識することで、活動のよさを次回につなげることができる。



活動が終わると各担当の先生からも感想などをもらいました。また自分たちでもグループの様子を含めたふり返りを行いました。そこでは、下級生たちの様子やよかったことや改善できそうなことをその日のうちにふり返りを行いました。

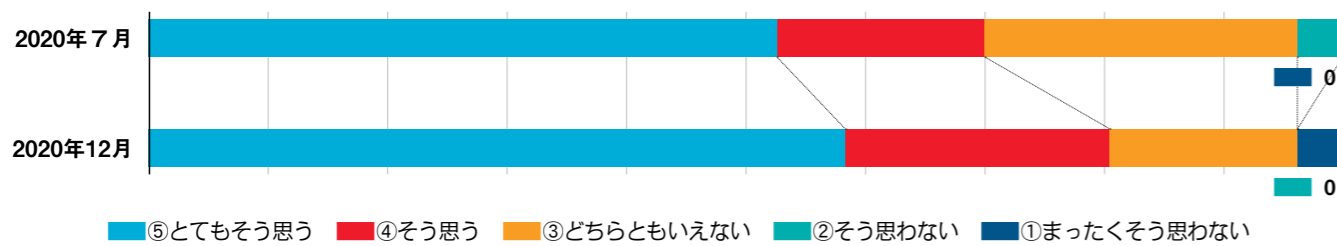
文責◎堀江加奈子

友だちのよさに気づき、よいものを認める仲間づくり

活動のきっかけや児童の様子 1年生は入学式を終え、新しい仲間との時間を過ごせずに2か月間休校。そこからクラスを2つに分けて仲間づくりをしてきましたが、ペアやグループでの学習経験が少ないため、友だちとどのように関わりあえばいいのか分からない子もいました。そのため「他者」への興味・関心をもてるような活動を日常的に行っていきたいと考えました。

実践アウトカム02	子どもたちが、多様な他者とコミュニケーションを図り、活動の価値に気づいている。
目標0201	相手意識をもって話したり共感的に聞いたりして、互いのよさに気づいている。
目標0202	年齢や考えが自分と異なる他者と協働している。
指針020101	根拠や理由を示しながら、説得力ある話し方で自分の考えを発表する。
指針020102	相手の考えに寄り添って聞く。
指針020103	ホワイトボード等を活用して、より多数の考えを取り入れた話し合いをする。
指針020201	学年に応じた目標を立て、たてわり活動に参加する。
指針020202	全校通足や運動会などの行事や集会で、同じ目標をもって、たてわり活動に取り組む。
指針020203	宿泊体験学習の宿泊地や活動で出会った方々の考えに触れ、土地の風土や文化を尊重しながら活動する。

じぶんのかんがえにりゆうをつけて、ともだちにつたえられましたか。



アンケート結果と分析 「とてもそう思う」「そう思う」と答えた子が増えていることから、自分の考えを伝えられるようになったと感じている子が増えていることがわかります。学級の様子からも「こんなことをすれば、みんなが喜んでくれる」と、周りのことを考えた行動が増えてきています。一方で、「どちらとも言えない」「まったくそう思わない」と、まだ実感が分からない子やうまく伝えられていないと感じている子がいることから、今後も経験を重ね、価値づけていく必要があると考えます。

活動の意図や成果・課題 「もっと友だちに興味をもってほしい」「いいものを吸収していくような柔軟さを身につけてほしい」と考え、帰りの会に「今日のキラキラさん」と題し、一生懸命頑張っていた子の姿を紹介し、賞状をあげることにしました。最初は「姿勢がいい」「掃除を頑張っていた」等、限定された行動のみを紹介していましたが、「○○さんのことを手伝っていた」「△△さんが鉛筆を落としたときに拾ってあげていた」など、友だちやクラスのためにしている行動を挙げるが増えてきて、視野が広がってきたように感じています。

また、帰りの会だけでなく、いい行動を価値づけることを子どもたち同士でしている姿も見られるようになりました。さらに学級全体で広まっていくことを期待しています。

中間アウトカム 友だちのよさを認め、学校生活の中の様々な場面で、相手意識をもって取り組む子ども。

ステップ01 友だちのためになる行動とは何かを見つける。

ステップ0101 学級目標をもとに、クラスで気持ちよく過ごすには、どんなことをしてもらいたいかを話し合う。

ステップ0102 これからどんな1年生になりたいかを共有する。



学級目標をもとに、「どんな1年生になりたいか」を話し合いました。その中で一番多かったのが「友だち」に関するものでした。友だちと仲よくするための方法を聞いたところ、「みんなのいいところをたくさん知りたい」という意見が多数出たことから、友だちのいいところを探していくことになりました。

ステップ0103 「今日のキラキラさん」を決める基準について考える。

ステップ02 クラス全員が「今日のキラキラさん」に選ばれるよう、友だちのいいところを見つける。

ステップ0201 目直が友だちのよかったところを帰りの会でクラス全体に伝える。

帰りの会で「掃除を一生懸命していた」「帰りの支度が早かった」など、友だちのよい姿を伝えるようにした。呼ばれた人は賞状がもらえ、同じものを教室に掲示しました。教室掲示を見ることで、いい行動の確認をするとともに、まだもらえていない子のよさを見つけようとする意欲につながりました。

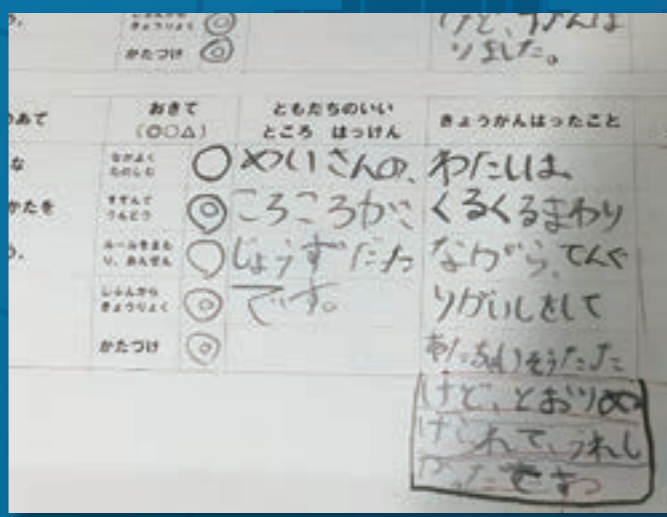


ステップ0202 自分がしてもらったことだけでなく、友だち同士であったいいエピソードを見つける。

ステップ03 学校の様々な場面において、相手意識をもって取り組む。

ステップ0301 学校生活だけでなく、授業や休み時間においても友だちのいいところがあることに気づく。

ステップ0302 友だちのいいところを見つけるとともに、自分自身が友だちにできることをもっと考えていこうとする気持ちをもつ。



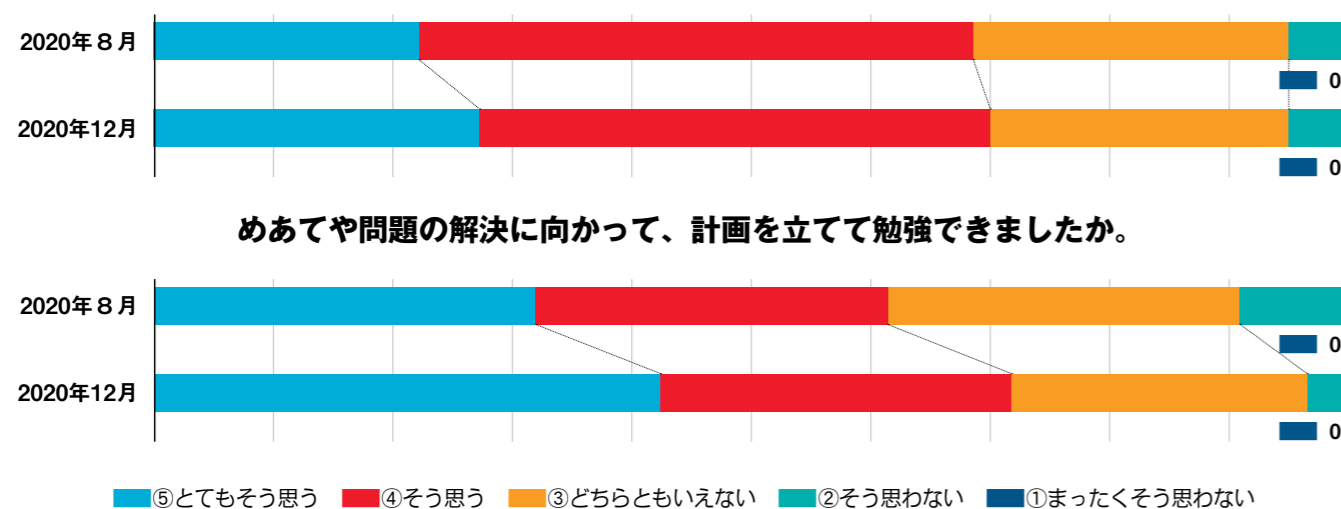
他教科でも友だちのよさに気づけるような学習をしました。たとえば、体育では学習カードで「ともだちのいいところははっけん」という項目をつくり、友だちの頑張っていた姿やよかった姿を具体的に書けるようにしました。また、学習カードの内容を紹介することで、書いた子と書かれた子、双方の価値づけをしました。

宿題をきっかけに 自立した学習者へ

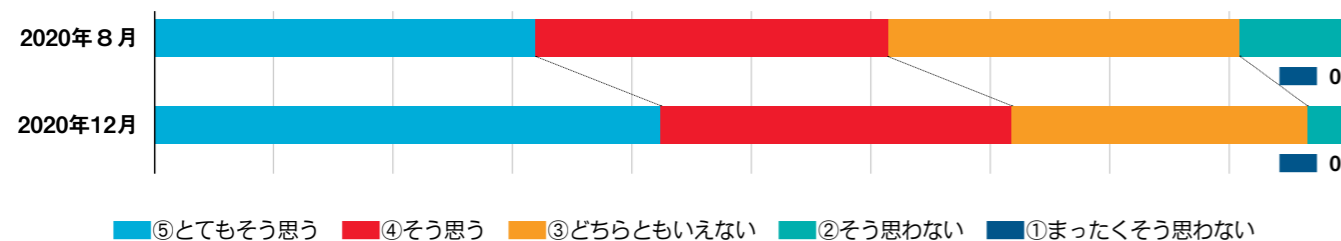
活動のきっかけや児童の様子 休校期間中の子どもたちの学習の様子から、自分でどんな勉強をしたらよいのか、考え実行することが難しいと分かりました。また学校の授業でも、自分のめあてを把握して授業を受けたり、ふり返りをしたりできるようにしたいと思いました。今年度から完全実施となった新学習指導要領においては、育成を目指す資質・能力の柱の一つとして、「主体的に取り組む態度」が位置づけられました。つまり、これまで以上に自分の課題を把握し、学習を進める力を育成することが求められています。そこで、自ら課題をたて、自己の必要に応じた学習が行えるよう宿題のあり方について考えました。

実践アウトカム01	子どもたちが、社会（まち・ひと）から課題を見出し、解決に向かって試行錯誤しながら活動を進め、自分たちの成長を感じている。
指標0101	発達段階に合った課題を【自ら/主体的に】見出している。
指標0102	具体的な解決方法を試しながら、粘り強く追究している。
指標010101	身近なまちや生活を見つめ直し、まちの課題解決に向けて、願いや思いをもつ。
指標010102	話し合いを通して、学年・学級集団で追究する価値がある課題を選択する。
指標010201	計画を立て、課題解決に向けて見直しをもつ。

自分のめあてをもって、勉強しましたか。



めあてや問題の解決に向かって、計画を立てて勉強できましたか。



アンケート結果と分析 二項目とも「とてもそう思う」「そう思う」の割合が少し増加しました。「そう思わない」という子どもの割合が減ったことから、クラス全体としては、「めあてをもって勉強する子ども」「計画を立て、勉強する子ども」が増えたことが分かります。

活動の意図や成果・課題 実際の宿題のノートを見ると、多くの子どもが毎日めあてを書き、立てためあてに対してふり返りをすることができるようになりました。また、めあても「まだかけ算の7の段が苦手だから7の段の練習をする」というように、自分の課題を見つけ、学習することができる子どもが増えました。こうした主体的に学習に取り組む態度は、授業にも生かされています。45分の授業で、どんなことができるようになったらいいかを自覚しながら、学習に取り組む様子が見られます。しかし、授業とリンクさせて宿題のめあてを考えられる子どもは、まだ少ないです。授業で学んだことから関連して調べたり、学習を深めたりする宿題になるように工夫をしていく必要があると感じました。

中間アウトカム 自分のことをふり返り、課題や苦手を把握し、それを克服するために、計画を立て勉強することができる子ども。

ステップ01 自分に合うものを選び、楽しく勉強することができる。

ステップ0101 宿題のめあてを立てる。

ステップ0102 宿題プリントの「えらべるゾーン」から、自分のするものを選ぶ。

ステップ0103 漢字テストの勉強をするときに、楽しくなる工夫を考える。

主体的に学習できるように、まずは自分の「やりたいこと」「やるべきこと」を考え、課題を選ぶ力が必要だと考えました。いくつかの課題から自分で選んでこれるような宿題プリントを出しました。



ステップ02 自分のことをふり返り、必要な学習を取り入れることができる。

ステップ0201 週間の予定を確認し、学習計画を立てる。

ステップ0202 返却されたテストを分析する。

ステップ0203 自分の課題を考え、それに合った学習を取り入れる。

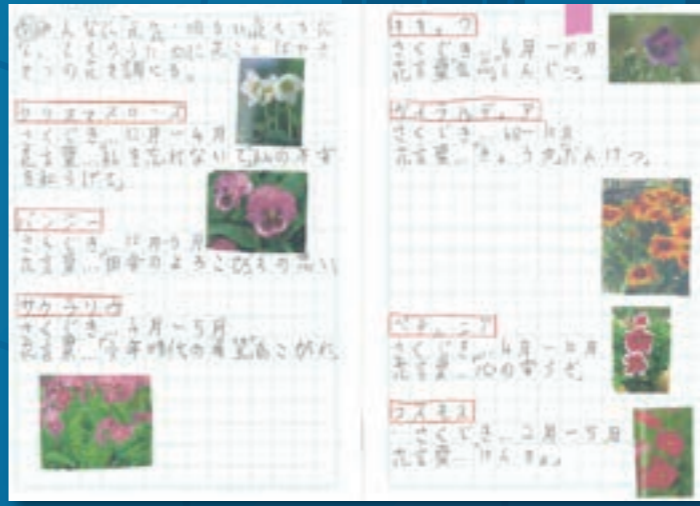
学年	14日(月)	15日(火)	16日(水)	17日(木)	18日(金)	19日(土)	20日(日)
国語							
算数							
英語							
理科							
社会							
音楽							
体育							
美術							
総合							



ステップ03 自由に自分でやることを決めて、学習を進めることができる。

ステップ0301 テストに備えて勉強する。

ステップ0302 勉強の仕方を工夫する。



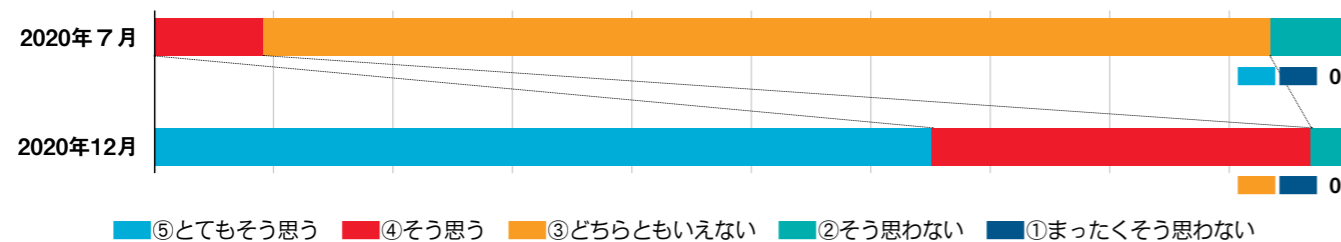
自分の苦手があっても、やはりそこに向き合うのはなかなか難しいと思います。そこで、楽しく学習する工夫を考え、継続的に学習に取り組めるようになってほしいと考えました。宿題の自由度を上げたり、友だちと宿題を見せ合う時間をつくったりしました。

子どもの学習動機に沿った学習展開

活動のきっかけや児童の様子 本校では持続可能な社会の担い手を育むため、ESDを基軸とした学校づくりが進められており、それに伴って多くの企業や団体と連携した授業づくりがなされています。外部機関と協働して社会的な問題の解決に取り組むことで、子どもたちは学校だけでは実現が難しい多くのことを学ぶ機会を得ることができます。しかし、子どもたちの様子を見てみると、「本当に社会的な問題を解決したいという思いのもと、活動に参加しているのか」といった学習動機に関する課題もみられます。発達の途上にある子どもたちが社会的な問題を解決したいと学習動機を飛躍させていくためには、子どもたちの内発的な動機づけを起点とした活動を発展させていく過程で、彼らが自分たちの学びと社会とのつながりを実感していけるような学習展開が重要になってくると考えます。そこで本実践では、子どもたちの素朴な思いを起点として、「その思いをいかに社会的な問題を解決したいという動機づけにつなげていくのか」をテーマとして学習を展開しました。

直接アウトカム 01	子どもたちが、社会（まち・ひと）から課題を見出し、解決に向かって試行錯誤しながら活動を進め、自分たちの成長を感じている。
直接アウトカム 02	子どもたちが、多様な他者とコミュニケーションを図り、活動の価値に気づいている。
指標 0204	地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。
指標 020401	保護者・地域への発表や交流を通して、自分たちの活動が社会の役に立っていることが分かる。
指標 020402	自分たちの活動が地域にとどまらず、地球全体にとって有意義な活動であることが分かる。
指標 020403	地域の行事やイベントに進んで参加し、ESDの取り組みを発信したり行動したりする。

自分たちの活動が、まちの人や社会の役に立っていると思いますか。



アンケート結果と分析 直接アウトカム0204に該当する本回答においては、全体的に、より肯定的な回答数の増加が見られました（上昇30名、下降1名）。子どもたちは「田んぼを生き物いっぱいの池にしたい」という思いから活動をスタートさせましたが、その過程において、絶滅危惧種である横浜メダカが棲む環境を保護している方と関わり、自分たちも横浜メダカを育て始めたことを通して、自分たちの活動も社会が抱える問題を解決することにつながっていることを実感するようになったことが、こうした児童の意識の変容を生じさせたと考えられます。

活動の意図や成果・課題 本実践では、子どもの内発的な動機づけから、社会的な問題解決へと学習が展開するように授業をデザインしました。アンケート結果からも明らかのように、子どもたちは自分たちの活動の社会的なつながりを自覚するに至りました。ゆえに、本実践において提案した子どもの学習動機に沿った学習展開は、有用な見解が提供できたと考えられます。子どもの思いを実現していく活動と、学校外の方の社会的な問題解決への取り組み——双方の目的や活動の接点を見出し、それぞれの活動が発展していくことが、真の協働であると考えます。

中間アウトカム 自分と周りの人たちのつながりを実感しながら思いを広げ、思いの実現に向かって問題を解決していく子ども。

- ステップ 01 水辺の環境やそこに棲む生き物に関心をもち、生き物が棲みやすい池をつくりたいという思いを広げる。
 - ステップ 0101 校庭にいる生物を探す中で、池の中にも生き物が棲んでいることに気づく。
 - ステップ 0102 生き物も棲みやすい池にするためには、どう田植えをすればいいのか考える。
 - ステップ 0103 実際に代かきや田植えを行うなど、池の整備を始める。

はじめに池の完成イメージをデザインしてみると、ほとんどの子どもが、「池に細かい仕切りを作って生き物ごとに分けて飼う」「定期的に餌を与える」といった池をデザインしました。このことから、動植物を「飼育・栽培する対象」として捉えている傾向があるという実態がみえてきました。そして話し合っただけの思いをもとに、田んぼの整備を行いました。整備した池には、さっそくヤゴやミズカマキリなど多くの生き物が棲み始めました。また、自分たちが整備した池に、他の学級の子どもが楽しく集まってくる様子を見て、みんなも楽しめるような池にするためには、どうすればいいのかと思いを広げていきました。



- ステップ 02 専門家と交流することを通して、生き物を育てる意味や池をつくる目的を見直し、活動の見直しをもつ。
 - ステップ 0201 横浜メダカの会やMEDAKAを始めとしたメダカの生態の研究や種の保護に携わる方々の思いや取り組みを知る。その上で、横浜メダカを飼育し始める。
 - ステップ 0202 資生堂グローバルイノベーションセンターの外構緑地が広く整備されているのを知り、また、そこに植えられている植物とその特性を観察する。
 - ステップ 0203 私たちはどんな池を作りたいのか、そして何をしたいかと実現できるのかを考える。

池の中に一番入れたいと思っていたメダカについての情報を得るため、絶滅危惧種である横浜メダカが棲む環境を保護している方と出会いました。話を伺っていくうちに、その方々の思いに共感し、自分たちも横浜メダカを守っていきたくて強く思い、卵から育てていくことになりました。また、人々の癒しを考えて庭を整備した企業の方の思いや考え方を知り、みんなから愛される場所づくりの大切さを学びました。



- ステップ 03 学校みんなから愛される持続可能な池づくりを目指して、行動する。
 - ステップ 0301 MMメダカの会を立ち上げたり、他学年と交流して池のことをもっと知ってもらったりする。
 - ステップ 0302 学校みんなの池にするために、全校から池の名前を募集する。

活動が進むにつれ、来年以降この池を誰が守っていくのかということに問題意識が及んできた子どもたちは、「持続可能な池をつくる」という思いから、他の学級の子どもたちと、より積極的に関わりをもつための行動を起こし始めました。

ここでの子どもの学習動機は、単に自分たちのためというわけではなく、横浜メダカを飼育している責任やこれまで関わった方々の思いも内包したものであることが、発言やふり返りカードの記述からうかがえました。

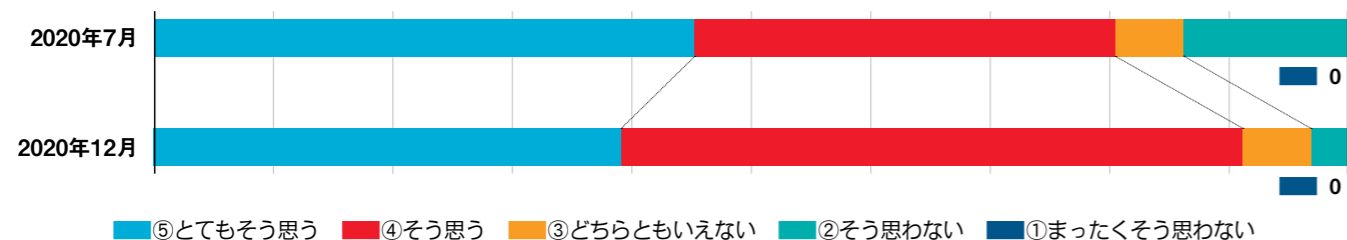


体験を重ね、 根拠をもって考えを伝える

活動のきっかけや児童の様子 3年生の子どもたちは、これまでの2年間で自分や自分と関わる「身近なヒトやモノ」について考えたり、繰り返し関わったりしてきました。昨年度は、SDGsについても理解を深め、「自分たちにできる活動」を考えたり実践したりしてきました。今年度は、これまでよりレベルアップしたいという思いをもち、視野を広げて自分たちの住みみなとみらいの「まち」の自然環境に目を向けて、活動を進めていこうと考えました。

高橋アウトカム01	子どもたちが、社会（まち・ひと）から課題を見出し、解決に向かって試行錯誤しながら活動を進め、自分たちの成長を感じている。
指標0101	発達段階に合った課題を【自ら/主体的に】見出している。
指標0102	具体的な解決方法を試しながら、粘り強く追究している。
指標0103	自分たちの考えや課題を更新しながら、発展的な課題解決学習を進めている。
指標010101	身近なまちや生活を見つめ直し、まちの課題解決に向けて、願いや思いをもつ。
指標010102	話し合いを通して、学年・学級集団で追究する価値がある課題を選択する。
指標010201	計画を立て、課題解決に向けて見直しをもつ。
指標010202	体験したり調べたりするなど、材（ひと・もの・こと）に繰り返し関わる。
指標010203	専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。
指標010301	活動を進める中で計画を見直ししたり、問い続けたりして学習を調整する。
指標010302	自分の見方・考え方の広がりや学び方のよさに気づく。
指標010303	専門家に出会い、アドバイスをもらいながら活動を進める。

自分の考えの根拠や理由をそえて、考えを伝えることができましたか。



アンケート結果の分析 「とてもそう思う」が減った一方で、「そう思う」の回答が増加していて、全体としては根拠をもって考えを伝えることに自信をもてるようになった児童が微増しました。

しかし、「どちらともいえない」や「そう思わない」と考える児童も数名いるため、体験活動と思いや考えを伝える場の設定を継続して行っていく必要があると考えられます。

活動の意図や成果・課題 子どもたちにアンケートをとると、自己肯定感が高く、自分や自分の知識に自信をもつ児童が多くいました。一方で、人前で話すことを躊躇したり、思いや考えがあってもそれを相手に表現することに苦手意識をもったりする児童がいました。そこで、自分たちの「やりたい」という思いをもとに体験活動を積み重ね、体験を通して感じたことを表現する場をつくっていこうと考えました。

他者（本やインターネット、伝聞）からの情報だけを頼りにするのではなく、実際に自分が調べたり体験したりしたことを根拠にして、自信をもって自分の思いや考えを伝えることができるようになってきました。

中間アウトカム 興味・関心をもった事柄について進んで調べたり体験したりする努力を繰り返し、自分なりの根拠をもって相手に考えを伝えることができる子ども。

ステップ01 昨年度までの「生活科」の学習をふり振り返り、「総合」の学習についての理解を深める。

ステップ0101 身近な「まち」や生活を見つめ直し、今年の総合で活動したいことを考え自由にアイデアを出す。



今年の総合の活動をどうするかについて、話し合いました。生き物や自然に関心が高い児童が多い一方で、今年はコロナ禍であることを強く意識して活動を考える児童もいました。SDGsの14番、15番、そして3番を意識しながら、自分たちにできる具体的な活動を考え、アイデアを出し合いました。

ステップ0102 アイデアをもとに、挑戦してみたい活動について意見を交換したり選んだりする。

ステップ0103 活動をSDGsの視点と照らし合わせ、学級で追究する価値がある課題なのかを考える。

ステップ02 みなとみらいの「まち」の実態を知るために、まち調べや専門家の話を聞き、調査を行う。

ステップ0201 社会科の学習と関連しながら、まち探検に行き、自分たちの住む「まち」の特徴をつかむ。

ステップ0202 探検のふり振り返りをもとに、「まち」の自然や生き物をもっと調べ、守ってきたいという思いをもつ。

ステップ0203 横浜の海に詳しい専門家の話を聞き、現状を知る。

「ハマの海を想う会」の吉野さんに来校いただいて、横浜の海や海に棲む生き物の現状について直接教えてもらう機会をもちました。身近にある水際線公園が海や海の生き物に直接接触れる貴重な場であることを初めて知りました。海の環境や生き物についての関心を深め、公園探検への意欲を高めました。



ステップ03 生き物を飼育し、海の生き物を守るための活動をする。

ステップ0301 経験豊富な6年生に教えてもらいながら、生き物を見つけたり、捕まえたりする。

ステップ0302 学校で生き物を飼育し、生き物についての理解を深めたり、自然を大切にしたいという思いをもつ。

ステップ0303 活動を通して考えたことをポスターや動画にまとめ、多くの人に伝える。



12月に行われた「語るWEEK」では、4年生とお互いの活動を紹介し合い、今後の活動へのアドバイスをもらうことができました。また、横浜市庁舎で行われた「アマモメッセンジャー」では、横浜の海や自然環境の大切さを多くの人に伝えました。これまでの活動を価値づけてもらうことができました。

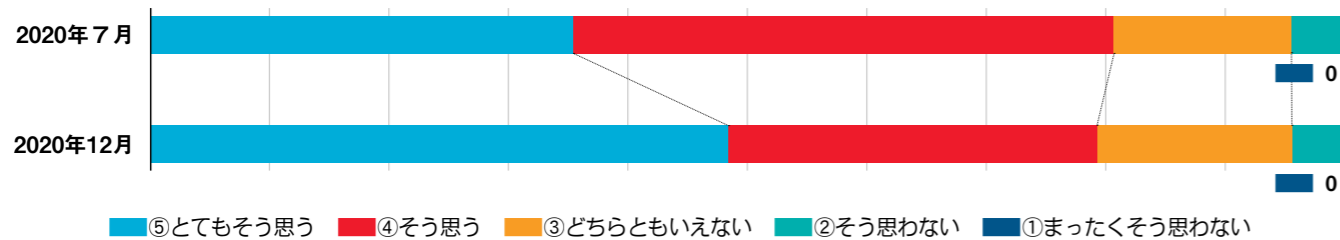
文責◎田屋宏人

ICT×言語＝寄

活動のきっかけや児童の様子 係活動や総合的な学習の活動では、自分たちでアイデアを出すことができ行動力にあふれています。話し合いでは、司会進行を自分たちで行い、自分の考えを積極的に伝えることができます。4年生として、自分とは異なる考えを受容したり、多くの子が納得するように一つの考えにまとめたりすることに力をいれたいと考え、ICTを活用した学習計画を立てました。

実践アウトカム02	子どもたちが、多様な他者とコミュニケーションを図り、活動の価値に気づいている。
指標0201	相手意識をもって話し合い共感的に関わり、互いのよさに気づいている。
指標020101	根拠や理由を示しながら、説得力ある話し方で自分の考えを発表する。
指標020102	相手の考えに寄り添って聞く。
指標020103	ホワイトボード等を活用して、より多数の考えを取り入れた話し合いをする。

友だちの意見を受け入れたり、一緒に考えたりして、学習に取り組めましたか。



アンケート結果と分析 肯定的な回答数の増加が見られました。友だちの意見を聞いたり、話し合ったりする機会を多く設けたことが要因として考えられます。その一方で、どちらとも言えない、そう思わないの数に増減はありませんでした。引き続き、児童自らが意見を受け入れたり、一緒に考えたりするよさを実感する機会を計画的に設ける必要があると考えられます。

活動の意図や成果・課題 「ICT×言語」を活用して、「寄」つまり自分の考えだけでなく友だちの考えにも寄り添うことで、自分の考えを広げたり、互いのよさに気づいたりすることを意図して本実践を開始しました。実際に取り組んでみると、ICTはコロナ禍でソーシャルディスタンスを保たなければいけない状況下でも、心理的に「寄」を意識した場をつくることができました。その一方で、ICTはあくまでも手段であるため、教師が何のために用いるか、自問自答しながら適時活用する必要があると感じました。また、ICTに限定するのではなく、日常の関わりや授業でも「寄」を大切に必要性を再確認しました。



なお、本実践は、ロイロノート・スクールを利用して行いました。

中間アウトカム ICT機器を活用して、多様な価値観を受け入れながら、社会に働きかけ、行動変容を起こすことができる子ども。

- ステップ01 一人ひとりの考えを共有することで自分の考えを広げたり深めたりする。(社会科)
 - ステップ0101 横浜と箱根のよさを書き出す。
 - ステップ0102 書き出した横浜と箱根のよさを思考ツールを使って整理する。
 - ステップ0103 横浜と箱根を比較して、気づいた類似点や相違点をまとめたあと、情報を共有する。



観光地（横浜と箱根）を比較し、一人ひとりが書いた気づきを共有することで、異なる気づきを受容し、児童の考えを広げました。また、ICTを利用することで自分の考えを積極的に表現する姿が見られました。箱根の伝統工芸、寄木細工が様々な種類の木が組み合わさって一つの素敵な模様になっているように、ICTで気づきを共有することで様々な気づきがあることを実感する時間となりました。



- ステップ02 一人ひとりが問いをつくることで、みんなにとっての問いを考える。(算数)
 - ステップ0201 一人ひとりが、四捨五入の理解を深める問題を作る。
 - ステップ0202 友だちに問題を答えてもらい、問題の出し方について助言をもらう。
 - ステップ0203 助言を参考にして、自分の問題を修正する。

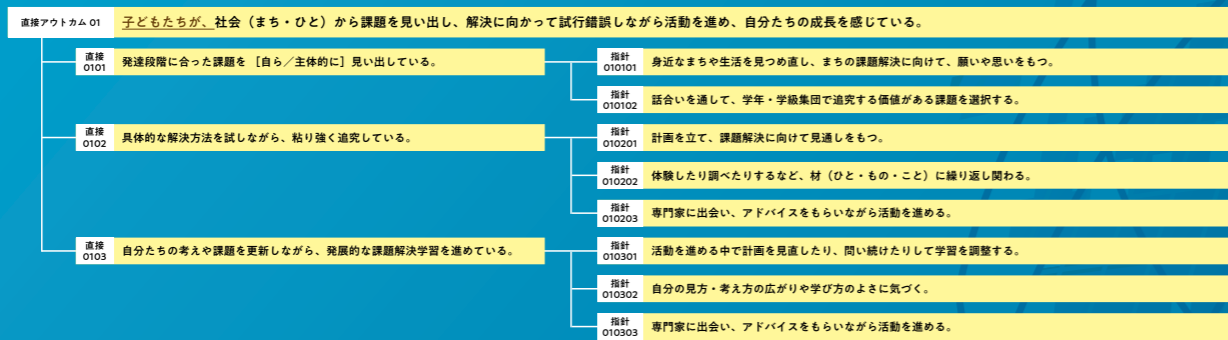


子どもが試行錯誤しながら問題を作ることを通して、答える子の気持ちに寄り添うなど、相手意識が高まりました。ICTを活用することで、条件不足の問題文や解答の誤りを、短時間で修正することができました。問題を作るのではなく問題を解くのが算数の通常の授業ですが、逆に問題を作る側に立場を変えることで、「寄」を意識した時間となりました。

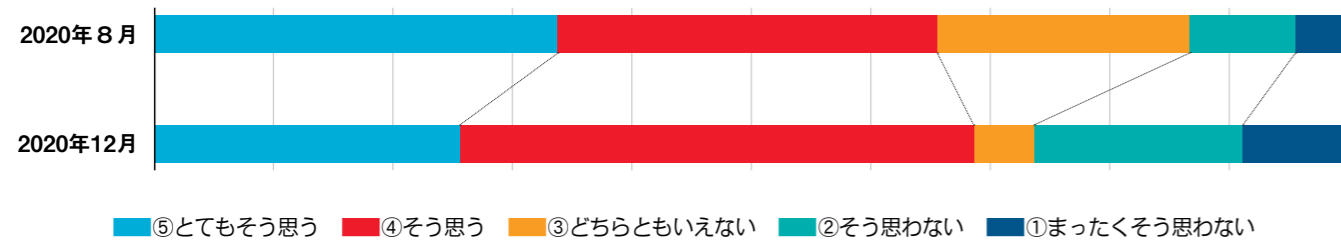
企業との協働でSDGsを広める

活動のきっかけや児童の様子 SDGsを知って2年。これまでも様々なSDGsに関わる活動をしてきた子どもたちは「SDGsを広めたい」という気持ちを強くもつようになってきました。

しかし、自分たちの力だけではSDGsを広められない。そしてこのコロナ禍では地域に出て活動することが難しい。そんな中から企業と協働できないか考えるようになってきました。出前授業に来てくださったロイヤリティマーケティングが社会にSDGsを広めたいということを知り、そこから活動がスタートしました。



自分でめあてや課題をつくり、学習にのぞむことができましたか。



アンケート結果と分析 8月から自分たちのめあてや課題をつくり、学習にのぞんでいる姿がよく見られました。総合的な学習の時間にも自分のGOALを毎時間定め、めあてをもち、1時間の間でどのように取り組みたいのか考えることができるようになってきました。

ただし、毎時間毎時間、本当に必要感があってめあてをもっている子どもがどれだけいたかは今後の課題と考えられます。

活動の意図や成果・課題 コロナ禍の中で、ZOOMを使った学習など新しい取り組みにチャレンジすることができました。直接外部の人と会うことはできなくても、つながることができる手段としてこれからもっともっと幅広くZOOMを使っていけると感じました。

また、実際に商品開発などを行っている企業とタッグを組むことで、経済問題やエビデンスの問題といった壁にぶつかり解決していくことは、子どもたちにとって大きな学びとなりました。

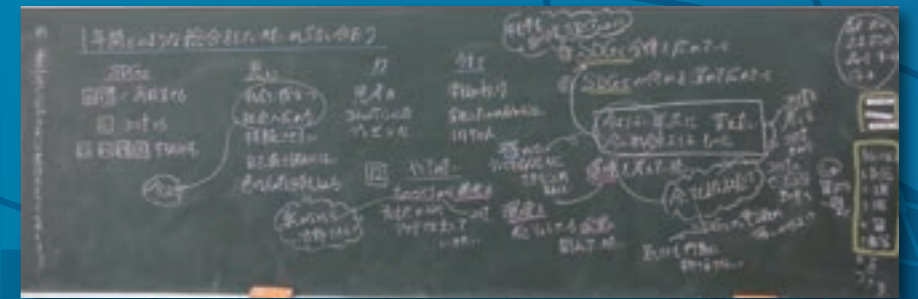


中間アウトカム 社会の課題解決に向けて、企業と協力したり多様な価値感を受け入れたりしながら、社会にはたらきかけ行動変容を起こすことができる子ども。

ステップ01 身近なまちや生活を見つめ直し、今年の総合のテーマを決める。

ステップ0101 学級で追究する価値がある課題なのか選ぶ。

自分たちが身につけたい力や、1年後になりたい姿を共有し、そのGOALに向けての活動を何度も話し合い、計画しました。



ステップ0102 これまでの活動に紐づけ、段階に応じた課題なのか選ぶ。

ステップ0103 1年間を通して学習している内容なのかを考える。

ステップ02 SDGsに取り組んでいる企業を調べたり、社会がどのくらいSDGsに関心があるのか調査したりする。

ステップ0201 身近なまちでもSDGsのロゴを見かけることに気づく。

実際に株式会社ロイヤリティマーケティングの方をお招きし、企業に取り組んでいるSDGsの啓発活動を学びました。自分たちと目的が似ていることから共に活動できないか考えました。

どんなことなら一緒にSDGsを広められるのか、様々なアイデアを提案しました。



ステップ0202 自主学习などで、実際にまちに出て、SDGsの活動をしている企業の取り組みを調べる。

ステップ0203 企業の取り組みに関心をもったり、もっともっと広めなければならないという危機感をもったりする。

ステップ03 ロイヤリティマーケティングのSDGsの取り組みを聞く。

ステップ0301 企業がまだまだSDGsについての知見が低いことや、ロイヤリティマーケティングが様々な啓発活動を行っていることに気づく。

ステップ0302 SDGsを広めたいという同じ活動目的をもっていることを知り、協働したいという思いをもつ。



グリーンポインタのサイトにアクセスし、SDGs活動を投稿するとポインタポイントが貰える、ポインタポイントを貯めるとSDGs商品と交換できるなどアイデアを出しましたが、なかなかうまく意見が通ることはありませんでした。経済効果や現実性、時間の問題など多くの壁にぶつかりながら、SDGsすごろくを制作することに決めました。

日本語で友だちをつくって どんどん仲良くなっていこう

活動のきっかけや児童の様子 6月より学校がスタートして、7月より国際教室が開始された中、当該児童は日本語でのコミュニケーションが取りにくい、「他者」への興味、関心があってもなかなか発信をためらいがちでした。

目標アウトカム 02 子どもたちが、多様な他者とコミュニケーションを図り、活動の価値に気づいている。	
指標 0201 相手意識をもって話したり共感的に聞いたりして、互いのよさに気づいている。	指標 020101 根拠や理由を示しながら、説得力ある話し方で自分の考えを発表する。 指標 020102 相手の考えに寄り添って聞く。 指標 020103 ホワイトボード等を活用して、より多数の考えを取り入れた話し合いをする。
指標 0202 年齢や考えが自分と異なる他者と協働している。	指標 020201 学年に応じた目標を立て、たてわり活動に参加する。 指標 020202 全校通足や運動会などの行事や集会で、同じ目標をもって、たてわり活動に取り組む。 指標 020203 宿泊体験学習の宿泊地や活動で出会った方々の考えに触れ、土地の風土や文化を尊重しながら活動する。
指標 0203 地域・保護者と協働している。	指標 020301 調査活動に、インタビューやアンケート調査を取り入れる。 指標 020302 調査を通して得られたことを取り入れながら、次の活動を進める。 指標 020303 「みなとみらいを語る会」などの発信を通して得た様々な立場の意見を取り入れながら、次の活動を進める。 指標 020304 地域・保護者から得られたより返りをともに、新しい視点の獲得や考えの深化を図っている。
指標 0204 地域社会の課題を理解し、よりよい未来の在り方を考えている。	指標 020401 保護者・地域への発表や交流を通して、自分たちの活動が社会の役に立っていることが分かる。 指標 020402 自分たちの活動が地域にとどまらず、地球全体にとって有意義な活動であることが分かる。 指標 020403 地域の行事やイベントに進んで参加し、ESDの取り組みを発信したり行動したりする。

活動の意図や成果・課題 「言語を通して友だちとつながってほしい」「いいものを吸収していくような柔軟さを身につけてほしい」と考えました。話し言葉中心の日本語指導と国語、算数の教科指導及び教室での入り込み指導を適宜使い分けながら、一人ひとりの児童のサポートをしてきました。

成果としては、友だちの会話が聞けるようになってきたり、自分の思いを話したりできるようになってきました。教科学習の中では、先生の話が理解できること、友だちの言葉を理解して答えられること、この順でサポートする中で、教科内容を理解していきました。

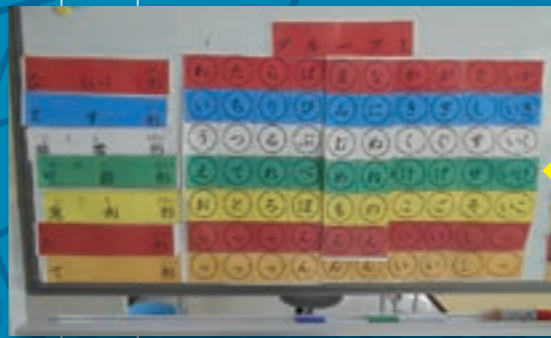
また、コミュニケーション力では、簡単な言葉で発話できるようになってきた児童もいました。一方、意識的なコミュニケーションがうまく取れないという課題があります。その課題を解決するためには、学校生活社会生活を想定し、劇化するなど、繰り返し学習に取り組む必要があると感じました。

COMMUNICATION



中間アウトカム 自分から友だちをつくり、仲間になれるために、日本語で友だちのよいところを考えて、作文にしたり話しかけたりして、友だちのためにできることを考えていける子ども。

ステップ 01 友だちをつくるために、日本語で話しかけられる。



いっしょに
いこう

まずは日常の学校生活に必要な言葉が使えるように練習しました。次に簡単な二語文で話せるように練習しました。教科指導と連動して漢字、作文、九九など繰り返し指導が必要な課題を復習しました。

ステップ 0101 友だちをつくるには、自分のことを友だちに聞くことが言える。

ステップ 0102 これから自分がしてほしいことが言える。

ステップ 0103 「日本語で話しかける」言葉について考える。

ステップ 02 自分の日本語で、友だちのいいところと言える。

ステップ 0201 簡単な日本語で友だちについて言うことができる。

「一緒に遊ぼう」「一緒に行こう」など、友だちにしてほしいことが言える。そして、「やさしいね」「すごいね」と友だちのよい姿を伝えるようにしました。「さみしい」という気持ちを確かめて、どうしたら友だちとつながることができるかを自覚して、友だちのよさを見つけようとする意欲につなげました。



ステップ 0202 簡単な日本語で友だちについて作文を書いて確かめる。

ステップ 0203 自分がしてもらったことだけでなく、友だちどうしでできた、いいエピソードを見つける。

ステップ 03 学校の様々な場面において、簡単な日本語で相手意識をもって話すことができる。

ステップ 0301 学校生活において友だちのいいところがあることに気づく。

ステップ 0302 友だちのいいところを見つけるとともに、友だちのためにできることをもっと考えていこうとする気持ちをもつ。

くさんのいいところ
くさんはいっしょにあ
そんでくれます。たと
えば、ひまなときにこ
えをかけてくれます。
とてもとてもいいとも
だちです。
たいせつにしたいです。

まず、簡単な文型で作文の練習をしました。次に、友だちについての作文を書くことで、友だちのよさに気づくことができました。

たとえば、「～さんはいっしょに遊んでくれます」そうして、「～さんを大切にしたいと思います」という感想につながるように繰り返し練習しました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



学習室

げんきのたいそう！

休校期間が長く、外で遊べないこともあった中で、運動をしてコロナに負けない元気な体をつくろうと、毎朝みんなで体操をしました。海や陸の生き物に関する体操や、食べ物の体操など、みんなが興味を持ったいろいろな楽しい体操を集めました。その日にする体操を自分たちで選んで、楽しみながら体力づくりに取り組みました。また、おすすめの体操を他の学級に紹介して一緒に体操をしました。関わった学級からは「動きが楽しかった」「難しかったけどこれからももっと練習したい」などの感想をもらいました。これからも様々な運動に親しみながら、体力づくりを楽しんでいこうと思っています。



1年1組

学校の、ぜんぶのみんなとなかよし！



今年は入学期に、他学年に直接会う機会がなかった1年生。でも子どもたちは、学校の中にお兄さんやお姉さんに興味津々です。新入生歓迎会でメダルをもらったお礼を、お手紙にして2年生に渡すと、6年、4年、3年、5年と、どんどん交流の輪を広げていきました。プロジェクトは、先生たちやお客さん、新しい1年生へと、まだ広がっていきます。

学校が大らかな気持ちがずっと続き、自分がもらったやさしさを今度は下級生に渡せますように。

1年2組

ぜんぶたべよう レッドカップ大きくせん！



初めての給食の時から毎日の給食を楽しみにしている子が多く、食についてもっと詳しくなろうと学習を進めました。WFP（国際連合世界食糧計画）の方を招き、世界の食料問題や日本の食料廃棄の現実を知ること、自分たちにできることはないかと探しました。身近な給食で自分の食べられる量をしっかり食べることで、食器に食べ残しがないように、きれいになるまで食べることを意識して取り組み、社会貢献につながっているという気持ちを持ち、活動に取り組むことができました。

【協力機関・企業】WFP（国際連合世界食糧計画）

2年1組

ありがとう プロジェクト



町探検に行って見つけたのは、たくさんの「助け合い」でした。交通整備をしてくれる工事現場の警備員さん。毎日行く公園の花壇の手入れや草刈りをしてくれている方。町を彩るイルミネーションを設置してくれている方。そこで、町のために尽くしている方に「ありがとう」を伝えるに行きました。伝えてみると、なんだか私たちの心もほかほかになり、みなとみらいの町がもっと好きになりました。

【協力機関・企業】株式会社大林組、高島中央公園愛護会

2年2組

まちのみりよくをつたえよう！



自分たちの住んでいるまちを探検すると、広場のように幅広い歩道や、寝転がれるようなベンチなど、たくさんの発見がありました。それらを総合してみると、みなとみらいは「おとなも子どもも みんなが 一緒に楽しめるまち」であることに気づきました。まちにある店の人にインタビューをすると、みんなと一緒に楽しめるための工夫をしていることも分かりました。それを知り、もっとたくさんの人に好きになってもらうための活動をしました。

【協力機関・企業】YMM21、パシフィコ横浜

3年1組

持続可能な池をつくろう ～われらMMメダカの会～

「学校の田んぼを生き物いっぱいの池にしたい!」という思いから活動をスタートさせた3年1組。自分たちの思いを実現するために、絶滅危惧種の横浜メダカの保護に取り組んでいる団体や、人々の癒しを考えて庭を整備した企業の方の思いや取り組みを学びました。学びを進めていく中で、生き物の生態を保護するためには、最後まで責任をもつことが大切だということに気づき、いつまでも持続可能な池を作ることを目指しました。

【協力機関・企業】横浜メダカの会、MEDAKA、資生堂グローバルイノベーションセンター

15 陸の豊かさも守ろう



5年1組

給食ムービー 作成計画

世界には多くの人たちが飢餓で苦しんでいる。WFP（国際連合世界食糧計画）の方の授業を受けて食について考え始めました。まずは自分たちにどのようなことができるのか考え、みなとみらい本町小の給食について調査をしました。残食の少ないことをこれからも引き継いでいくために、新入生に向けて給食動画を作成。1年生にインタビューしたり、クイズを交えたりして給食を楽しく食べてもらえるよう工夫しました。残食が少ないという伝統が、これからも残っていくといいです。

【協力機関・企業】WFP（国際連合世界食糧計画）

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3年2組

SDGsで考えよう ～横浜の海と生き物～

自分たちの「まち」の自然や生き物に関心をもち、活動を進めてきました。「ハマの海を想う会」の吉野さんから横浜の海の現状や海に棲む生き物たちの様子について教えてもらったり、海辺での活動経験が豊富な6年生と交流したりしながら、生き物の調査や飼育に取り組みました。身近な自然環境をよりよくしたいという思いをもち、自分達にできることを実践したり活動を経て分かったことを発信したりしました。

【協力機関・企業】ハマの海を想う会、高島水際線公園愛護会

14 海の豊かさも守ろう



5年2組

エコクルプロジェクト ～人にも自然にもcare～

「SDGsってみんな知っているの?」そんな疑問から始まった総合。社会の人たちがどれだけSDGsについて知っているのかまずは調査をしました。そんな中、ロイヤリティマーケティングもSDGsを広めようと活動していることを知り、協働することになりました。小学生でも大人でも身近にできるSDGsを交えたポスタすざろく第2弾の内容やデザインを考え、より多くの人にSDGsについて考えてもらえるよう働きかけました。

【協力機関・企業】株式会社ロイヤリティマーケティング

17 パートナリシップで目標を達成しよう



4年1組

きれいな世界をつなげてフォーワン ～一人ひとりができること～

「ごみ問題について聞いたことはあるけれど、そもそもお家のごみはどこへ?」という疑問から始まった活動。実際に、自分たちの住んでいるマンションのごみ収集場について調べたり、横浜市3R（リデュース・リユース・リサイクル）について話を聞いたりする中で、しだいにごみが役立つものに変身することにも気づきました。

創造的なりサイクル「アップサイクル」のできる素材があることを知るなど活動が広がっていきました。

【協力機関・企業】横浜市資源循環局、横浜市資源リサイクル事業協同組合、株式会社TBM、横浜ベイコート倶楽部 ザ・カハラ・ホテル&リゾート横浜



6年①

横浜の海の豊かな生態系を広く伝えたい! ～高島水際線公園の環境を再現! 海水槽作り～

4年生の頃から継続して高島水際線公園の環境について調べてきました。都心部にありながら、汽水域と海水域があり、水辺の生き物が豊富な公園です。ボラやテナガエビなどの生き物を校内でも広めようと海水槽づくりに挑戦しました。海水濃度や温度の管理、生き物たちが住みやすい水槽を生き物コンサルタントの青木さんと共に作り上げました。

【協力機関・企業】生き物コンサルタントARU 青木宏樹様、高島水際線公園愛護会

11 住み続けられるまちづくりを



14 海の豊かさも守ろう



4年2組

つくろう! New World

今、世界ではどんなことが起こっているのか…。自分たちと同じくらいの年代の子供たち、世界の子どもを取り巻く問題について調べました。テーマを決めて調べていく中で、「学校に行かずに働いている子どもがいる」「捨てられている食料がたくさんある」などの現状を知りました。そんな世界の現状を知り、今の自分たちができることを考えました。



6年②

まちの魅力を伝えよう! ～みなとみらい線と協働! 一日乗車券と周辺マップ作り～

6年間お世話になったこのまちの魅力を伝えるために、みなとみらい線と協働し、私たちのおすすめする情報を載せた周辺マップを作りました。みなとみらい線の一日乗車券とセットで使ってもらえるように工夫しました。一日乗車券には、みなとみらいを象徴する夜景を選び手描きでいねいに仕上げました。このまちの魅力をまちの人やこのまちを訪れたすべての人に伝えられるように魅力を凝縮したものに仕上げました。

【協力機関・企業】横浜高速鉄道株式会社

11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナリシップで目標を達成しよう





第3回 みなとみらい本町小学校運動会

コロナ禍の影響で開催が危ぶまれる中、今までにない新しい形（午前開催、保護者座席指定に加えての入れ替え制）で運動会を実施することができました。運営にあたっては、運動会実行委員の児童を中心にして、児童自身がスローガンや全校競技のルールを熟考して決めました。今年のスローガンの「赤白みんなで心を一つに全力で」にも、コロナに負けないで頑張ろうという児童の思いが入っています。できない理由を探すのではなく「どうやったら実施することができるのか」という視点をもって取り組む児童の姿に、SDGsの17番がリンクしていました。



「みな」と「みらい」を語るWEEK

年末に行われた「みな」と「みらい」を語るWEEKでは、各学級が生活科・総合的な学習の時間にESD/SDGsの視点をもって取り組んできた活動を伝え合いました。今年度はペア学年を中心に活動について伝え合い、互いに感想や今後の活動に向けてアドバイスを交換しました。発達段階に応じて、他者から多くのフィードバックをもらうことで、物事を多面的に捉え、多様な価値観にふれる機会をもつことができました。



パトトリみらいサミット

平等な社会とは何なのか、誰もが住みやすい社会とはどのような社会なのかを1年間通して問い続けてきました。スローレーベルの方とその問いについて考えることでアカンパニスト（伴奏者）になっていく活動を行いました。一人ひとりが自分の考えるアカンパニストについて語り、答えのない問いと向き合いました。アカンパニストとは、互いの長所や短所を認め合うこと、自分とできないこと相手にできないことを得意なことと埋め合うことなど、様々な考えを共有することができました。



クリスマスツリー点灯式 「One world tree ～世界は夜空でつながっている～」

毎年クイーンズスクエアにて、クリスマスツリーの点灯式に参加しています。今年は5年生が参加し、そこでは自分たちにできるSDGsを番号ごとに発表しました。できないことをするのではなく、身近にできることから行っていく、訴えていく。社会に向けて発信することで、少しでもまちが変わるようにと願いを込めました。当日は、2年生のクリスマスソングも響き渡りました。



みんなで支えるESD ——コミュニティ・スクール&みらい共創ネットワーク！——

みなとみらい本町小学校には、ESDを支える2つの機能があります。

1 コミュニティ・スクール（学校運営協議会）

教育委員会から学校運営協議会の設置が認められた学校を「コミュニティ・スクール」といいます。本校でも2019年10月に学校運営協議会の設置が認められ、コミュニティ・スクールとなりました。

学校運営協議会は、教育委員会から任命された委員による、学校運営の基本方針の承認や学校運営に対す

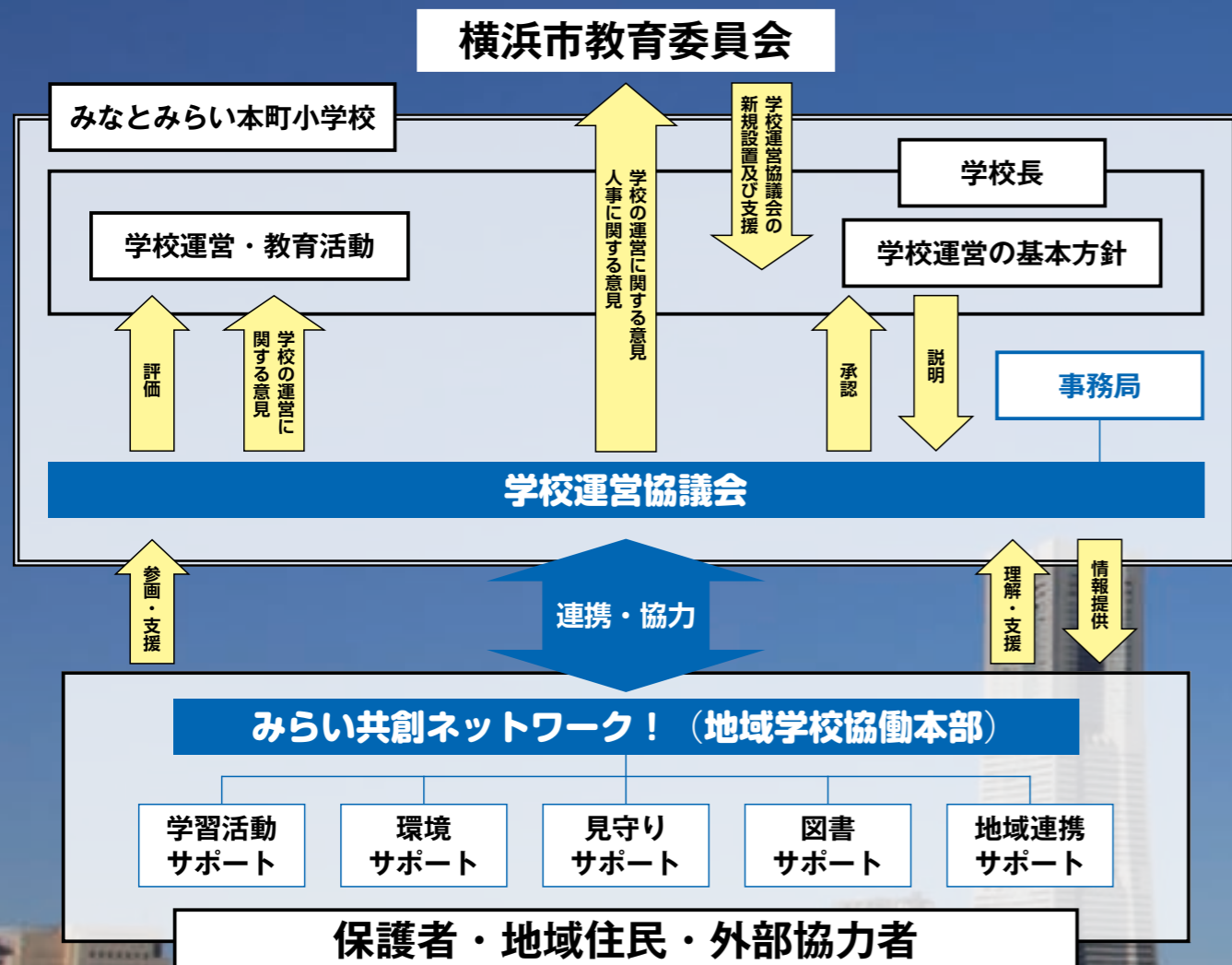
る意見を通して、関係者の皆さんの意見を反映した協働的な学校づくりを目指します。

本校の重点取り組みであるESDの推進についても、学校運営協議会で承認され、関係者が一体となって推進することが確認されました。

2 みらい共創ネットワーク！（地域学校協働本部）

幅広い地域住民や民間企業、NPO等が参画し、地域と学校が連携・協働しながら、地域社会全体で子どもたちの成長を支え、地域社会を創生することを目指す「地域学校協働本部」として、2018年9月に「み

らい共創ネットワーク！」がスタートしました。ESDを推進するための多様で豊かな子どもたちの活動を支えています。



「しなやかな学校になろう！」という、校長の言葉からスタートした2020年度。コロナウイルスによるパンデミックが世界中に広がり、全国一斉臨時休校という、誰も経験したことのない状況の中、職員一人ひとりが、「今だからこそできる子どもたちの学びは何か」を考え、学習・教育活動を模索していきました。そうして生まれた今年度の研究部会が「し

なやか部会」と「ホールスクール部会」です。本誌は、正解は見えづらくても、「できないこと」ではなく「できること」を考え続けた本校職員と子どもたちの学びの記録です。

今回、本誌に示されている通り、子どもたちのアンケートからは多くの変容を見ることができました。開校以来3年間の研究の成果とも言えますが、全世界が共通に、そして同時に向き合っている難題（コロナウイルス）が、子どもたちに社会課題の当事者としての意識とともに、「自分たちで何かを解決してみよう」というマインドセットを持つことができたからだとも考えます。結果としてコロナウイルスが、ESDにおける「現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動」の必然性を、私たちに再認識させてくれました。

子どもたちにとって、「withコロナ」から「afterコロナ」へと続くであろう先の時代、今年度の主体的、探究的な学びが、きっと生かされていくのではないのでしょうか。

結びになりますが、本校のESD推進およびロジックモデルを活用した教育活動の研究にあたり、多くの皆様にご協力をいただきましたこと、東洋大学の米原あき教授をはじめとして、ご助言・ご指導いただきましたことに深く感謝申し上げます。

今後とも、本校が掲げる『『みな』と『みらい』を創る子』の学校教育目標実現に向け、そして、「持続可能な社会」の担い手を育む小学校としてのさらなる発展のために、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

横浜市立みなとみらい本町小学校 副校長

Katsushi Abe 安部勝志



みなとみらい本町小学校2020年度 職員

校長 小正 和彦
副校長 安部 勝志
児童支援専任 広瀬 ひろみ
専科 眞木 由紀恵
専科 林 さよ子
専科 田島 尚子
非常勤講師 井上 由紀子
国際教室 新田 純一

日本語教室講師 金澤日佐子
養護教諭 半澤 祐美子
事務職員 藤山 貴生
栄養職員 渡辺 美由紀
学校司書 木輪 和代
アシスタント 山崎 絹子
アシスタント 石川 直子
理科支援員 小林 真由美

ICT支援員 長瀬雅樹
AET パオラ リンガー
IUI ヒメノ コラゾン
カウンセラー 田中 裕人
カウンセラー 胡 実
SSW 大塚るみ
技術員 葉山 笑美子
技術員 小川 芳夫

調理員 矢野 美津子
調理員 鈴木 寿美
学習室 牛島 享子
学習室 金本 隆
1年1組 一色 恵
1年2組 田中 雄大
2年1組 柰田 陽花
2年2組 赤岡 鉄矢

3年1組 松尾 健一
3年2組 田屋 宏人
4年1組 望月 勇太
4年2組/教務主任 赤津 淳子
5年1組 津田 迪加
5年2組 中藪 直人
6年1組 堀江 加奈子
6年2組 高原 洋介

ICT=インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー
AET=アシスタント・イングリッシュ・ティーチャー
IUI=インターナショナル・アンダースタANDING・インストラクター
SSW=スクール・ソーシャル・ワーカー